287
別置
9

0051571001

0051571-001

２８７－９

岡山医科大学一覧

岡山医科大学・編

岡山医科大学

大正１５至昭和５，８至１０年

昭和２至９

AHN

287
9

岡山醫科大學一覽

自大正十五年
至昭和二年

岡山醫科大學一覽

寄贈本

目次

⊙沿革略 一
⊙大學ニ關スル法令 一
大學令 一
大學特別會計法 一
官立醫科大學官制 二
⊙學位 二
學位令 二
岡山醫科大學學位規程 二
⊙官立大學長職務規程 三
⊙官立大學教官ノ職務俸ニ關スル件 三

目次

287-9

目次

⊙名譽敎授ノ待遇ニ關スル件 三九頁
⊙岡山醫科大學職員 四一頁
⊙岡山醫科大學規則
第一章 學期及休業日 五一頁
第二章 授業、學科目 五二頁
第三章 入學、在學、休學、退學、轉學及除籍 五七頁
第四章 試驗及卒業 六一頁
第五章 試驗手數料、入學料及授業料 六四頁
第六章 服裝 六五頁
第七章 懲戒 六六頁
第八章 外國學生 六六頁
第九章 專攻生 六六頁
⊙岡山醫科大學研究科規程 六六頁
⊙岡山醫科大學副手規程 六七頁
⊙岡山醫科大學附屬醫院規程 七五頁
岡山醫科大學附屬醫院產婆看護婦養成科規則 七六頁
⊙岡山醫科大學附屬圖書館規程 八七頁
⊙岡山醫科大學獎學資金規程 九一頁
⊙學生 九三頁
學生道府縣別人員表 九七頁
⊙建物略圖 九九頁
⊙附錄 九九頁
學友會規則 九九頁
岡山醫科大學卒業生 一〇五頁
元第三高等中學校醫學部、元第三高等學校醫學部卒業生 一〇七頁
元岡山醫學專門學校、元岡山醫科大學附屬醫學專門部卒業生

岡山醫科大學一覽

◉沿革略

岡山醫科大學ハ大正十一年勅令第百四十三號ニ依リ同年四月一日ヨリ設置セラレ岡山醫學專門學校ノ組織ヲ變更シテ成レルモノナリ。今溯リテ其沿革ヲ敍スヘシ。

明治三年四月岡山藩大ニ醫學ノ進歩ヲ圖リ、備前國上道郡門田村操山ノ麓ニ醫學館及大病院ヲ開設シ、每年約米五千苞ヲ給シテ其資ニ充テ、淺野學ヲ督事ニ任シ、蘭醫魯依篤兒等ヲ敎師ニ聘シ、醫學生徒ヲ敎育シ、廣ク患者ヲ治療ス。

明治四年七月更ニ小病院ヲ岡山中之町ニ設ク、是ヨリ先淺野學ノ督事ヲ免シ、田坂辰三郎ヲ以テ之ニ代フ、十二月普通學校ヲ開設シ、醫學館ヲ醫學所ト改稱シ其附屬トナス。

明治五年二月醫學所及大病院ヲ閉鎖シ、唯小病院ノミヲ存ス、四月之ヲ再興シ、生田安宅ヲ以テ總括トナス。七月醫學所、大病院及小病院ヲ合併シ中村謙次郎ヲ取締ニ任シ、病院中ニ醫學所ヲ設ケ、之ヲ醫學教場ト稱ス、是ヨリ後明治十三年マテ醫學教場ハ全ク病院ノ附屬タリ。幾モナク中村謙次郎其職ヲ罷メ生田安宅代テ取締ノ事ヲ行フ。

明治六年八月病院ヲ岡山榮町ニ移ス。

明治八年八月始メテ病院長ヲ置キ、生田安宅ヲ以テ之ニ任ス。

明治九年四月公立病院ト改稱ス。六月生田安宅ノ病院長ヲ免シ、若栗章ヲ以テ之ニ代フ。

明治十二年三月公立病院ヲ縣立病院トナス。五月病院ヲ岡山弓之町ニ移ス。七月若栗章辭職ス。十月清野勇ヲ病院長兼醫學教頭ニ任ス。

明治十三年九月醫學教場ヲ病院ト分離獨立セシメ岡山縣醫學校ト改稱シ、菅之芳ヲ校長ニ任ス。

明治十五年四月本校卒業生ハ別ニ試驗ヲ要セス直ニ内務省ヨリ開

業免狀ヲ交付セラル、コト、ナレリ、蓋シ其特典ヲ得タル、ハ醫學校中ニ於テ本校ヲ以テ嚆矢トス。

明治十六年六月校ヲ岡山内山下西丸ニ移ス。八月甲種醫學校ノ允許ヲ得タリ。

明治十八年八月六日　車駕山陽道御巡幸ノ節本校ヘ　臨御アラセラル。

明治十九年四月九日勅令第十五號ヲ以テ中學校令ヲ布カレ、全國ヲ五區ニ分劃シ、每區ニ高等中學校一箇所ヲ設置スルコト、ナリ、同月二十九日勅令第三十五號ヲ以テ高等中學校ノ官制ヲ定メ、十一月三十日文部省告示第三號ヲ以テ各高等中學校ノ設置區域ヲ定メラル。」

明治二十年八月十九日文部省告示第六號ヲ以テ各高等中學校ニ醫學部ヲ設置シ、第三高等中學校醫學部ヲ岡山ニ置カル。九月十七日文部省令第九號ヲ以テ高等中學校醫學部ノ學科及其程度ヲ定メラル。」

明治二十一年二月四日岡山縣醫學校長兼教諭菅之芳第三高等中學

校醫學部長ヲ命セラル。三月三十一日岡山縣醫學校ヲ廢止ス。四月一日第三高等中學校醫學部ヲ開設ス、其校舍ハ岡山縣醫學校所用ノモノヲ假用シ、其生徒ノ階級ハ、舊醫學校生徒及各府縣舊醫學校生徒ヲ以テ之ヲ編制シ、其臨牀講義及治療ニ關スル實地演習ハ、總テ岡山縣病院ニ就テ之ヲ行フコト、ナス、同月八日開部式ヲ行フ。

明治二十二年三月二十二日文部省令第二號ヲ以テ高等中學校醫學部ニ藥學科ヲ附設シ、其學科及程度ヲ定メラル。五月二日地ヲ岡山內山下ニ相シ、茲ニ本校新築ノ工ヲ起ス。

明治二十三年二月六日文部省告示第一號ヲ以テ本校ニ藥學科ヲ附設セラル。同月十四日敎諭松尾周藏幹事ニ兼任ス。四月八日附設藥學科ヲ開設ス。七月十二日本校構內ニ病院新築ノ工ヲ起ス。同月二十一日去年五月起工セシ新築校舍略落成シタルニヨリ此ニ移轉ス。十月十五日勅令第二百三十號ヲ以テ直轄學校官制ヲ改正セラレ、敎諭、助敎諭ヲ改メテ敎授、助敎授ニ任シ、管部長ハ改メテ主事ヲ命セラル。十

二月六日研究生規程ヲ定ム。同月二十七日敎育ニ關スル御宸署ノ勅語ヲ拜受ス。

明治二十四年一月十二日第一回勅語捧讀式ヲ行フ、七月一日病院新築工事略落成セシニヨリ岡山縣ニ貸附ス、依テ岡山縣病院ヲ此ニ移轉セリ。同月二十四日勅令第百三十七號ヲ以テ直轄諸學校官制ヲ改正シ、幹事ヲ廢セラル。九月二十四日文部省令第五號及第六號ヲ以テ醫學科ノ學科及其程度中各學科ノ授業時數及藥學科ノ學科及其程度中改正追加セラル。

明治二十六年九月十日醫科及藥學科ノ學科程度中英語ヲ外國語ト改メ、之ヲ隨意科トナシ、裁判醫學ヲ法醫學ト改ム。

明治二十七年六月二十三日勅令第七十五號ヲ以テ高等學校令ヲ布カレ、七月十二日文部省令第七十五號ニ據リ九月十一日ヨリ本校ヲ第三高等學校醫學部ト改稱シ、附設藥學科ヲ廢セラル、同日文部省令第十六號ヲ以テ修業年限及入學程度ノ件ヲ、又同月十七日同省令第十

七號ヲ以テ講座ノ數ヲ定メラル。

明治二十八年七月二十二日主事菅之芳非職ヲ命セラレ、内科學研究ノ爲メ滿二年間獨國へ留學ヲ命セラル。七月三十一日教授熊谷省三主事ヲ命セラル。同月二十一日自今卒業生ハ學力檢定ノ上得業士ト稱スルコトヲ得、元第三高等中學校醫學部卒業生ハ學力檢定ノ上得業士ト稱スルコトヲ得ル規定ヲ定ム。

明治二十九年九月十七日特待生規程ヲ定ム。

明治三十年十二月十日曩ニ獨國へ留學ヲ命セラレタル非職教授菅之芳歸朝セシニ依リ復職(主事故ノ如シ)ヲ命セラレ、教授熊谷省三ノ主事ヲ免セラル。

明治三十四年三月三十一日勅令第二十四號文部省直轄諸學校官制中改正ニ基キ、四月一日文部省令第八號ニ據リ、四月一日ヨリ第三高等學校醫學部ヲ第三高等學校ヨリ分離シテ、岡山醫學專門學校トセラル。本校ハ明治二十一年四月ヨリ第三高等中學校ノ所屬タリシカ、

此ニ至リテ始メテ獨立セリ。四月一日教授菅之芳學校長心得ヲ命セラル。六月五日學校長ニ任セラル。

明治三十六年三月二十六日勅令第六十一號ヲ以テ專門學校令ヲ公布セラル。同月三十一日專門學校入學者檢定規程ヲ定メラル。

明治三十九年七月九日爾今卒業證書授與式ヲ廢止ス。

明治四十年四月十日文部省令第十號ヲ以テ官立醫學專門學校規程ヲ定メラル。

明治四十一年十一月二日規則中ヲ改正シ、明治四十一年以後ノ卒業者ハ岡山醫學專門學校醫學士ト稱スルコトヲ得ルコト、セリ。

明治四十二年五月二十日規則中ヲ改正シ、明治四十年以前ノ卒業者ニシテ岡山醫學專門學校醫學士ト稱スルコトヲ得ル者ヲ規定ス。

明治四十三年二月十日外國人特別入學規程細則ヲ定ム。十一月十七日　御沙汰ニヨリ恒久王殿下本校ニ台臨アラセラル。

大正二年七月十五日校長兼教授菅之芳願ニ依リ本官並兼官ヲ免セ

ラレ、千葉醫學專門學校敎授筒井八百珠學校長兼敎授ニ任セラル。

大正三年三月三十日菅之芳ヨリ內科學特別奬學金トシテ金壹千圓ヲ寄贈ス。

大正四年六月十七日菅忠芳ヨリ菅奬學資金トシテ公債額面貳千參百圓ヲ寄附ス。十月二十二日　天皇陛下御眞影、皇太子殿下御影拜戴式ヲ行フ。十二月二十三日山上賴治ヨリ學校敷地內ニ金拾萬圓ヲ以テ研究所及其設備一切ノ寄附ヲ出願ス。

大正七年一月八日文部省令第一號ヲ以テ官立醫學專門學校規程中ヲ改正セラル。二月二十一日病理學敎室及藥物學敎室改築校舍竣工ス、是ヨリ先キ岡山市外鹿田村ニ本校ヲ移轉改築スルコト、ナリ、大正六年一月ヨリ其工事ニ着手セシモノナリ。四月十三日本校官立三十年岡山縣病院縣立四十年祝賀式ト共ニ記念祝賀式ヲ擧行ス。十二月七日解剖學敎室及附屬室竝ニ生徒控所改築工事竣成ス。

大正八年九月三十日生理學敎室竝ニ實驗室其他竣工ス。

大正九年十月四日本館及衞生學細菌學敎室其他竣工ス。

大正十年一月二十八日校長兼敎授筒井八百珠薨去、同日敎授舟岡英之助學校長事務取扱ヲ命セラル。三月三十日勅令第四十九號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制中ヲ改正シ、其結果四月一日ヨリ元岡山縣病院ヲ繼承シ之ヲ附屬醫院トナス。四月一日附屬醫院規則及附屬醫院看護婦養成規則ヲ定ム。同日敎授筧繁附屬醫院長兼醫長ヲ命セラル。同月十四日事務所ヲ新築校舍ニ移轉ス。同月二十五日醫化學講義室竝同實驗室及附屬室竣工ス。五月三十日敎授藤田秀太郎學校長兼敎授ニ任セラレ敎授舟岡英之助ノ學校長事務取扱ヲ免セラル。

大正十一年三月三十一日勅令第百四十二號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制中ヲ改正シ岡山醫學專門學校ヲ削ラル。同日勅令第百四十三號ヲ以テ官立醫科大學官制ヲ定メ岡山醫科大學ヲ置カル。四月一日藤田秀太郎大學長兼敎授ニ任シ附屬醫學專門部主事ニ補セラレ覽

繁附屬醫院長ニ補セラレ教授以下職員ノ任命アリ。同月二十五日第一年級ノ授業ヲ開始ス。五月五日入學宣誓式ヲ擧行ス。六月二十一日教授篤繁ノ附屬醫院長ヲ免シ教授藤田秀太郎附屬醫院長ニ補セラル。

大正十二年三月三十日勅令第九十三號ヲ以テ官立醫科大學官制中ヲ改正セラル。五月五日第二回入學宣誓式ヲ行フ。九月二十六日教授田中文男附屬醫院長ニ補セラレ教授藤田秀太郎ノ同醫院長ヲ免セラル。十月十五日大學長藤田秀太郎歐米各國視察ノ爲出發ス依テ教授上坂熊勝ニ學長事務代理ヲ命ス。

大正十三年二月四日研究科規程中ヲ改正ス。四月二十一日勅令第九十四號ヲ以テ官立醫科大學官制中ヲ改正シ附屬醫學專門部ヲ廢止セラル。五月五日第三回入學宣誓式ヲ行フ。同月十三日大學長藤田秀太郎歸朝ス依テ教授上坂熊勝ノ學長事務代理ヲ解ク。

大正十四年三月十四日大學長兼教授藤田秀太郎願ニ依テ本官竝兼

官ヲ免セラレ同日教授田中文男大學長ニ任セラレ越エテ同二十五日教授ニ兼任セラル。同二十三日學則第三十五條ヲ改正シ授業料一箇年金百圓トス。同三月三十一日教授赤岩八郎附屬醫院長ニ補セラル。同五月五日第四回入學宣誓式ヲ行フ。同十一月二日本學規則中第六條第七條及第三十七條ヲ改正ス。

大正十五年五月二十三日　皇太子殿下中國御巡遊ノ御序ヲ以テ本學ヘ行啓遊サル。同十一月三十日教授上坂熊勝ヨリ上坂奬學資金トシテ公債額面金貳千圓ヲ寄附ス。

◉大學ニ關スル法令

大學令

勅令第三百八十八號（大正七年十二月五日）

第一條　大學ハ國家ニ須要ナル學術ノ理論及應用ヲ教授シ並其ノ蘊奥ヲ攻究スルヲ以テ目的トシ兼テ人格ノ陶冶國家思想ノ涵養ニ留意スヘキモノトス

第二條　大學ニハ數個ノ學部ヲ置クヲ常例トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ單ニ一個ノ學部ヲ置クモノヲ以テ一大學ト爲スコトヲ得

學部ハ法學、醫學、工學、文學、理學、農學、經濟學及商學ノ各部トス、特別ノ必要アル場合ニ於テ實質及規模一學部ヲ構成スルニ適スルトキハ前項ノ學部ヲ分合シテ學部ヲ設クルコトヲ得

第三條　學部ニハ研究科ヲ置クヘシ

數個ノ學部ヲ置キタル大學ニ於テハ研究科間ノ聯絡協調ヲ期スル爲之ヲ綜合シテ大學院ヲ設クルコトヲ得

第四條　大學ハ帝國大學其ノ他官立ノモノヽ、外本令ノ規定ニ依リ公立又ハ私立ト爲スコトヲ得

第五條　公立大學ハ特別ノ必要アル場合ニ於テ北海道及府縣ニ限リ之ヲ設立スルコトヲ得

第六條　私立大學ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第七條　前條ノ財團法人ハ大學ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少ナクトモ大學ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財產ヲ有スルコトヲ要ス

基本財產中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第八條　公立及私立ノ大學ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ學部ノ設置廢止亦同シ

前項ノ認可ハ文部大臣ニ於テ勅裁ヲ請フヘシ

第九條　學部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該大學豫科ヲ修了シタル者高等學校高等科ヲ卒リタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

入學ノ順位ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條　學部ニ三年以上在學シ一定ノ試驗ヲ受ケ之ニ合格シタル者ハ學士ト稱スルコトヲ得

前項ノ在學年限ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ四年以上トス

第十一條　研究科ニ入ルコトヲ得ル者ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ三年以上當該學部ニ在學シ其ノ他相當ノ學力ヲ具ヘタル者ニシテ當該學部ニ於テ適當ト認メタルモノトス

第十二條　大學ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得大學豫科ニ於テハ高等學校高等科ノ程度ニ依リ高等普通教育ヲ爲スヘシ

第十三條　大學豫科ノ修業年限ハ三年又ハ二年トス

修業年限三年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

修業年限二年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十四條　大學豫科ノ設備、編制、教員及教科書ニ付テハ高等科ニ關スル規定ヲ準用ス

第十五條　大學豫科ノ生徒定數ハ毎年ノ豫科修了者ノ員數カ其ノ年當該大學ニ收容シ得ル員數ヲ超過セサル程度ニ於テ之ヲ定ム

ヘシ

第十六條　大學及大學豫科ノ學則ハ法令ノ範圍内ニ於テ當該大學之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條　公立及私立ノ大學ニハ相當員數ノ專任教員ヲ置クヘシ

第十八條　私立大學ノ教員ノ採用ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ公立大學ノ教員ニシテ官吏ノ待遇ヲ受ケサル者ニ付亦同シ

第十九條　公立及私立ノ大學ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第二十條　文部大臣ハ公立及私立ノ大學ニ對シ報告ヲ徵シ檢閱ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十一條　本令ニ依ラサル學校ハ勅令規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外大學ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ大學タルコトヲ示ス文字ヲ用ウルコトヲ得ス

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大學特別會計法

法律第十一號（大正十年三月二十九日）

第一條　帝國大學ハ各別ニ其ノ他ノ官立大學ハ之ヲ通シテ一ノ特別會計ヲ立テ資金ヲ所有シ政府ノ支出金、資金ヨリ生スル收入、授業料、寄附金、其ノ他ノ收入ヲ以テ其ノ一切ノ歲出ニ充テシム

第二條　前條ノ政府支出金ハ東京帝國大學ニ在リテハ每年度貳百九拾五萬參千參百五圓、京都帝國大學ニ在リテハ每年度百七拾壹萬五千四百貳拾八圓トシ其ノ他ノ帝國大學及官立大學ニ在リテハ每年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ之ヲ繰入ルヘシ

東京帝國大學ニ在リテハ前項ノ金額ノ外航空ニ關スル研究ノ費用ニ充ツル爲必要ナル金額ヲ每年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ繰入ルヽコトヲ得

第三條　各帝國大學及官立大學ノ資金ハ政府ヨリ交付シ又ハ他ヨリ寄附シタル動產及不動產竝歲入殘餘ヨリ成ル但シ官立大學ニ

在リテハ第七條ノ施行豫算ノ歲入殘餘ニシテ資金ニ編入シタルモノハ官立大學每ニ區分シ之ヲ整理スヘシ

第四條　大學ノ歲出ニ充ツル爲必要アルトキハ其ノ資金ヲ支消スルコトヲ得但シ用途指定ニ係ル資金ニ付テハ用途指定者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五條　政府ハ每年各帝國大學及官立大學ノ特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條　大學特別會計ノ豫算中ニハ豫備費ヲ設クヘシ但シ東北帝國大學、九州帝國大學、北海道帝國大學及官立大學ノ特別會計豫算ニ在リテハ此ノ限リニ在ラス

第七條　文部大臣ハ歲入歲出豫算決定ノ後豫備費ヲ除クノ外各大學每ニ歲入歲出ノ施行豫算ヲ調製シ當該大學ノ總長又ハ學長ヲシテ之ヲ施行セシムヘシ

文部大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項以外ノ者ヲシテ歳入歳出豫算ノ一部ヲ施行セシムルコトヲ得

第八條　大學ニ於テ外國ヨリ直接ニ圖書、機械、標本又ハ實驗用材料ノ買入ヲ爲ス場合ニハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第九條　寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其ノ條件ニ從ヒ之ヲ使用スヘシ

第十條　奬學ヲ目的トスル寄附金ハ之ヲ當該大學ニ交附シ總長又ハ學長ニ經理ヲ委任スルコトヲ得

第十一條　委任經理ニ係ル會計ノ檢查ハ會計檢查院法第十六條ノ規定ニ依ル

第十二條　官立大學ニ屬スル收入ヲ以テ其ノ歳出ヲ支辨シ別ニ政府支出金ヲ要セサルニ至リタルトキハ當該大學ノ爲ニ特別會計ヲ設クルモノトス

第十三條　大學特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　官立大學ノ創設費ハ第一條ノ規定ニ拘ラス一般會計ノ所屬トス

第十五條　官立大學特別會計ノ設置及官立大學ノ創設ニ付一般會計及學校及圖書館特別會計ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス

帝國大學特別會計法及大正七年法律第四號ハ之ヲ廢止ス但シ大正九年度分ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

他ノ法律ニ於テ帝國大學特別會計法トアルハ大學特別會計法トス」

仙臺高等工業學校ノ設置ニ付東北帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計ニ關渉シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

官立醫科大學官制

勅令第百四十三號（大正十一年三月三十一日）

第一條　官立醫科大學ハ左ノ如シ（大正十二年勅令第九十三號同十三年勅令第九十號同第百三十四號同十四年四月一日勅令第七十九號同十五年九月七日勅令第三百二號ヲ以テ改正）

新潟醫科大學
岡山醫科大學
千葉醫科大學
金澤醫科大學
長崎醫科大學

第二條　官立醫科大學ニ左ノ職員ヲ置ク

大學長
教授
助教授
事務官

學生監
助手
書記
司書

第三條　大學長ハ勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ官立醫科大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

大學長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第四條　教授ハ奏任又ハ勅任トス學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス」

第五條　助教授ハ奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

第六條　事務官ハ奏任トス大學長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第七條　學生監ハ教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス大學長ノ命ヲ承ケ學生ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第八條　助手ハ判任トス教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケ學術ニ關ス

ル職務ニ服ス

第九條　書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第九條ノ二　司書ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書記錄ノ整理保存及閱覽ニ關スル事務ニ從事ス

第十條　大學長ハ必要アル場合ニ於テハ講師ヲ囑託スルコトヲ得」

第十一條　官立醫科大學ニ敎授會ヲ置キ敎授ヲ以テ之ヲ組織ス

大學長ハ敎授會ヲ召集シ其ノ議長ト爲ル

第十二條　敎授會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一　學科課程ニ關スル事項

二　學生ノ試驗ニ關スル事項

三　學位ニ關スル事項

四　文部大臣又ハ大學長ノ諮詢シタル事項

第十三條　大學長ハ必要アリト認ムルトキハ助敎授又ハ講師ヲ敎授會ニ列席セシムルコトヲ得

第十四條　官立醫科大學ニ附屬醫院ヲ置ク

附屬醫院ニ左ノ職員ヲ置ク

醫院長

藥局長

藥劑手

看護長

第十五條　醫院長ハ敎授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス大學長ノ監督ヲ承ケ醫院ノ事務ヲ掌理ス

第十六條　藥局長ハ奏任トス醫院長ノ監督ヲ承ケ醫院藥局ノ事務ヲ掌理ス

第十七條　藥劑手ハ判任トス藥局長ノ指揮ヲ承ケ醫院藥局ニ關スル職務ニ服ス

第十八條　看護長ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ醫院ニ於ケル看護ニ關スル職務ニ服ス

第十九條　千葉醫科大學、金澤醫科大學及長崎醫科大學ニ附屬藥學專門部ヲ置ク

藥學專門部ニ教授及助教授ヲ置ク

教授ハ奏任、助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

藥學專門部ニ主事ヲ置ク專門部教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

大學長ノ命ヲ承ケ專門部ノ事務ヲ掌理シ職員ヲ監督シ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第二十條　官立醫科大學、附屬醫院及附屬專門部ノ專任職員ノ定員ハ別表ニ依ル

第二十一條　官立醫科大學ニ功勞アリ又ハ學術上功績アル者ニハ勅旨ニ依リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトアルヘシ

第二十二條　官立醫科大學ニ附屬圖書館ヲ置ク

圖書館ニ圖書館長ヲ置ク教授又ハ助教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

圖書館長ハ大學長ノ監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス

（別表）

官立醫科大學職員定員表　（抄）

	大學長	教授	助教授	事務官	助手	書記	司書	附屬醫院		
								藥局長	藥劑手	看護長
岡山醫科大學	一人	二十四人	二十三人	一人	六十二人	十二人	一人	一人	十人	十人

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス（以下略ス）

◉學位

學位令

勅令第二百號（大正九年七月五日）

第一條　學位ハ博士トス

第二條　學位ハ大學ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ授與ス

第三條　博士ノ種類ハ大學ニ於テ之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　學位ヲ授與セラルヘキ者ハ大學學部研究科ニ於テ二年以上研究ニ從事シ論文ヲ提出シテ學部教員會ノ審査ニ合格シタル者又ハ論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ學部教員會ニ於テ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者トス

第五條　學部教員會ハ前條ノ論文審査ニ付其ノ提出者ニ對シ試問ヲ行フコトヲ得

第六條　大學ニ於テ學位授與ノ認可ヲ申請スルトキハ論文及其ノ審査ノ要旨ヲ添附スヘシ

第七條　學位ヲ授與セラレタル者ハ授與ノ日ヨリ六月内ニ其ノ提出ニ係ル論文ヲ印刷公表スヘシ但シ學位授與前既ニ印刷公表セラレタルモノナルトキ又ハ文部大臣ニ於テ其ノ印刷公表ヲ相當ナラスト認メタルモノナルトキハ此ノ限リニ在ラス

第八條　大學ハ論文ノ審査ニ付手數料ヲ徴收スルコトヲ得

第九條　學部教員會ニ於ケル論文審査ノ手續其ノ他學位ニ關スル規程ハ大學ニ於テ之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　學位ヲ有スル者其ノ榮譽ヲ汚辱スル行爲アルトキハ大學ニ於テ學位ニ關スル規程ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ經テ學位ノ授與ヲ取消スコトヲ得

岡山醫科大學學位規程

第一條　本學ニ於テ授與スル學位ハ醫學博士トス

第二條　本學研究科ニ於テ二年以上研究ニ從事シタルモノハ其ノ研究事項ニ就キ論文ヲ學長ニ提出シ學位ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ該當セサル者ニシテ學位ヲ請求セントスル者ハ履歷書ヲ添ヘ論文ヲ學長ニ提出スヘシ

第三條　學位請求論文ハ自著一篇(三通)トス

但シ參考トシテ他ノ論文ヲ附加スルコトヲ得

論文ハ之ヲ返付セス

第四條　第二條第二項ニヨリ學位ヲ請求スル者ハ審査手數料金百圓ヲ納付スヘシ

既納ノ料金ハ之ヲ返付セス

第五條　提出セラレタル論文ハ學長之ヲ本學教授會ノ審査ニ付ス」

第六條　本學教授會ハ審査ニ付セラレタル論文ニ就キ教授中ヨリ

貳名以上ノ委員ヲ選定シテ之ヲ調査セシム

但シ必要アリト認メタル時ハ助教授又ハ講師ヲ以テ委員ニ充ツルコトヲ得

調査ニ必要アル時ハ論文ノ譯文又ハ標本等ヲ提出セシメ場合ニヨリテハ試問ヲ行フコトアルヘシ

第七條　調査委員ハ一箇年以内ニ論文ノ要旨ヲ記錄シ調査ノ結果ヲ教授會ニ報告スルモノトス

但シ特別ノ事情アル時ハ教授會ノ議決ニヨリ調査期間ヲ延長スルコトヲ得

第八條　學位授與ノ決定ヲ爲スニハ在職教授ノ三分ノ二以上出席シ無記名投票ニ依リ出席教授三分ノ二以上ノ贊成アルコトヲ要ス

海外旅行中ノ教授ハ前項ノ數ニ算入セス

第九條　本學ヨリ學位ヲ授與セラレタル者ニシテ其ノ榮譽ヲ汚辱

スル行爲アリタル時ハ學長ハ教授會ノ議決及文部大臣ノ認可ヲ經テ學位ノ授與ヲ取消シ學位記ヲ還付セシム

教授會ニ於テ前項ノ議決ヲ爲スニハ在職教授ノ三分ノ二以上出席シ其ノ四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ此場合ニモ準用ス

第十條　學位記ノ樣式左ノ如シ

學位記

道府縣

氏　名

右者論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ本學教授會ハ之ヲ授與スヘキ學力アリト認メタリ仍テ大正九年勅令第二百號學位令ニ依リ茲ニ醫學博士ノ學位ヲ授ク

年月日

第　號

岡山醫科大學　印

◉官立大學長職務規程

文部大臣訓令（大正九年四月二十一日）

第一條　高等官ノ除服、出仕、暇願及高等官任地外居住、他官廳其ノ他ノ事業囑託ニ應スルノ願及高等官ヲ內地ニ出張セシムルハ大學長ノ判行ニ任ス

第二條　大學長ハ高等官ニ事務分課ヲ命スルコトヲ得

第三條　大學長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四條　左ノ事項ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケテ後施行スヘシ

第一　學科課程ノ設定及變更ニ關スルコト

第二　規則ノ設定及變更ニ關スルコト

但シ既定規則ノ範圍內ニ於テ其ノ細則ヲ設クルハ此ノ限ニアラス

第三　授業料、試驗料、其ノ他諸收入金ノ定率ヲ定ムルコト

第四　外國人ヲ雇入レ其ノ契約ヲ定メ若ハ契約期間內ニ雇ヲ止ムルコト

第五　歲入歲出豫算ニ依ルノ外新ニ義務ヲ負擔シ及權利ヲ棄却スルコト

第六　學科課程ニ關係シ又ハ規則ノ設定變更ヲ要スル事項ヲ條件トスル寄附ヲ受クルコト

第七　八日以上臨時休業スルコト

第八　右ノ外例規ナキ重大ノ事件ヲ處理スルコト

◉官立大學教官ノ職務俸ニ關スル件

勅令第三百九十二號（大正十二年八月二十九日）

官立大學ノ教授及助教授ニハ本俸ノ外學科ノ種類職務ノ繁閑ニ從ヒ俸給トシテ職務俸ヲ給スルコトヲ得

教授ノ職務俸ハ年額二千二百圓以下助教授ノ職務俸ハ年額千四百圓以下トス但シ職務俸ノ額ハ本俸ト合シテ六千圓ヲ本俸及年功加俸ト合シテ六千七百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年勅令第百四十五號ハ之ヲ廢止ス

◉帝國大學名譽教授、官立大學名譽教授及文部省直轄諸學校名譽教授ノ待遇ニ關スル件

勅令第百五十二號（大正四年八月九日）

帝國大學名譽教授、官立大學名譽教授及文部省直轄諸學校名譽教授ハ勅任官ヲ以テ待遇ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉岡山醫科大學職員

（昭和二年一月一日現在）

大學長	醫學博士	田中文男	兵庫
事務官	醫學士	横田春吉	福岡
學生監	醫學士	鈴木稔	東京
書記		村上杢二	岡山
書記		小野義彦	岡山
書記		福島種次郎	岡山
書記		大西英男	岡山
書記		楠野至厚	岡山
書記		楠見虎吉	岡山
書記		太田龜次郎	岡山
書記		吉田信次	岡山

囑託

圖書室

館長　醫學博士　生沼曹六　石川
司書兼書記　松田金十郎　岡山
教授

解剖學　醫學博士　上坂熊勝　岡山
解剖學　醫學博士　八木田九一郎　大阪
解剖學　醫學博士　敷波重治郎　石川
耳鼻咽喉科學　醫學博士　田中文男　兵庫
小兒科學　醫學博士　好本節　大阪
病理學　醫學博士　田村於兎福　島
生理學　醫學博士　生沼曹六　石川
產科學・婦人科學　醫學博士　安藤畫一　大分
外科學　醫學博士　赤岩八郎德　島
內科學　醫學博士　稻田進　愛知

藥物學　醫學博士　奧島貫一郎　愛媛
外科學　醫學博士　津田誠次　鹿兒島
醫化學　醫學博士　清水多榮　東京
內科學　醫學博士　柿沼昺作　東京
精神病學　醫學博士　林道倫　山形
細菌學　醫學士　鈴木稔　東京
病理學　醫學博士　田部浩　廣島
皮膚科泌尿器科學　醫學博士　皆見省吾　石川
衞生學　醫學博士　緒方益雄　東京
法醫學　醫學博士　遠藤中節　京都
眼科學　醫學博士　畑文平　靜岡

助教授

解剖學　池上馨一　岡山
皮膚科泌尿器科學　醫學博士　中川小四郎　奈良

外科學　醫學博士　石田堅三郎（在外研究中）　新潟
醫化學　醫學博士　戸田茂　岡山
產科學・婦人科學　醫學博士　關場代五郎　岡山
內科學　醫學博士　田川蟬太郎（在外研究中）　岡山
耳鼻咽喉科學　醫學博士　笠井經夫　岡山
內科學　醫學士　北山加一郎　和歌山
解剖學　醫學博士　關正次（在外研究中）　岡山
精神病學　醫學士　大熊泰治　北海道

講師

醫化學　醫學士　米村貞知　石川
眼科學　醫學士　筒井德光　三重
外科學　醫學士　大坪豐　佐賀
外科學　佐藤政夫　岡山
生理學　西丸和義　廣島

病理學　醫學博士　濱崎幸雄　三重
內科學　龍治節三　岡山

助手

病理學　玉川忠太　兵庫
病理學　醫學士　吉田智一　鹿兒島
醫化學　御前慶造　和歌山
病理學　菊澤隆尚　三重
生理學　林香苗　德島
藥物學　藤田正夫　愛媛
醫化學　醫學士　上代皓三　岡山
產科學・婦人科學　醫學博士　齋藤治　岡山
內科學　須賀廣太　岡山
醫化學　唐澤利千雄　長野
病理學　佐野進　兵庫

病理學　河村九十九　滋賀
藥物學　西下正巳　和歌山
細菌學　井戸福秀　岡山
細菌學　渡邊濱澄　岡山
解剖學　尾藤太靜　岡
衞生學　板野秀夫　岡山
法醫學　中井良平　福岡
解剖學　熊谷藏之允　山口
法醫學　吉本精一　岡山
精神病學　武野一雄　岡山
外科學　菅野大作　三重
內科學　原勝巳　岡山
眼科學　藤井清信　愛媛
內科學　久本實三　岡山

生理學　醫學士　奧山美佐雄　岡山
內科學　大森精一　岡山
耳鼻咽喉科學　小田大吉鳥取　醫學士
皮膚科泌尿器科學　大道直一　大阪
解剖學　佐藤俱正　德島
衞生學　景山重一　山口
精神病學　難波良隣　岡山
小兒科學　武田縫次　岡山
產科學・婦人科學　結城英夫　島根
外科學　吉田美壽利　香川
解剖學　結緣主計　岡山
內科學　杉生喜三　岡山
耳鼻咽喉科學　三宅郁多香　川
皮膚科泌尿器科學　藤原晧　岡山

外科學　三井逸平香川
外科學　岡崎忠雄廣島
小兒科學　川口秀一郎廣島
眼科學　鈴木得三靜岡

附醫屬院

醫院長　教授　醫學博士　醫學士　赤岩八郎德島
（兼勤）　事務官　橫田春吉福岡
書記

會計掛長　各務利彥岡山
會計掛勤務　吉田浩岡山
會計掛勤務　田中琢磨廣島
庶務掛長（兼）　大西英男岡山
會計掛勤務（兼）　楠野至厚岡山
會計掛勤務　御牧宗一岡山

囑託

藥局長
藥劑手

看護長

藥學士　赤井左一郎千葉

芦澤米吉岡山
藤井勉岡山
妹尾誠太郎岡山
吉田留次岡山
岩崎成章岡山
角南英八郎岡山
吉野定夫長崎
安達貫一岡山
中野國香岡山
佐野嘉納岡山

近藤かよの岡山

秋山幸江 岡山
砂田サクヨ 廣島
仁井田千里 岡山
横見シメ 岡山
渡邊志計與 岡山
梶野千代子 岡山
片岡好 岡山
大野小ヨシ 岡山

◉岡山醫科大學規則

第一章　學期及休業日

第一條　一年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期　四月一日ヨリ九月十日マテ

第二學期　九月十一日ヨリ十二月三十一日マテ

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日マテ

第二條　定期休業日左ノ如シ

春季休業	四月一日ヨリ同七日マテ
夏季休業	七月十一日ヨリ九月十日マテ
冬季休業	十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マテ
日曜日	
紀元節	二月十一日
春季皇靈祭	春分日

天長節　四月二十九日
秋季皇靈祭　秋分日
神嘗祭　十月十七日
新嘗祭　十一月二十三日
岡山醫科大學記念日　五月二日

第二章　授業、學科目

第三條　本學ニ於テ授業スル科目及其ノ一週時間數左ノ如シ
但シ教授上特別ノ必要アルトキハ變更スルコトヲ得

學科目竝ニ一週授業時數配當表

學科目＼年別＼學期		第一年			第二年			第三年			第四年		
		一學期	二學期	三學期	一學期	二學期	三學期	一學期	二學期	三學期	一學期	二學期	三學期
組織學	系統解剖學	一〇	八	六									
	組織學實習竝顯微鏡用法	五											
解剖學	局所解剖學												
	胎生學	二	二										
	解剖學實習	二回三時間宛	二回三時間宛	二回三時間宛	四回三時間宛								
生理學	生理學	六	六		二	二							
	生理學實習				三回三時間宛								
醫化學	醫化學	五	二										
	醫化學實習		二回三時間宛	二回三時間宛									
細菌學	細菌學				二	三	三						
	細菌學實習					二回三時間宛	二回三時間宛						
藥物學	藥物學				四	二	二						
	藥物學實習					二回三時間宛							
	處方學						一						
	病理總論	四			三								

病理各論	病理學 病理組織學實習	病理標本示說	病理解剖學實習	衛生學 衛生學	法醫學 法醫學	診斷學及實習	內科學 內科各論及臨牀講義	內科外來患者臨牀講義	外科總論	繃帶實習	外科各論及臨牀講義	外科外來患者臨牀講義	外科手術實習
三	二回三時間宛		時々			二			二				
四	二回三時間宛		同			二			三				
			同			三			三	△			
		二	時々				△	六			△	六	
		二	同				△	六			△	六	
		二	同				△	六			△	六	△
	一		時々			二	二		△	六	△	六	
	一		同			二	二		△	六	△	六	
	一		同			二	二		△	六	△	六	

產科學婦人科學	產科婦人科臨牀講義	產科婦人科外來患者臨牀講義	產科模型演習	皮膚科學 皮膚科學臨牀講義	皮膚病科泌尿器科外來患者臨牀講義	泌尿器科學	眼科學 眼科臨牀講義	眼科外來患者臨牀講義	檢眼鏡實習	耳鼻咽喉科學 耳鼻咽喉科學	耳鼻咽喉科臨牀講義
三	三	一	二			三	一			二	
三	三	一	二			三	一		△	二	
三	三	一	二	△		三	一		△	二	
三	二	△	△	一			△	一			
	二	△	△	一			△	一			
	二	△	△	一			△	一			

	耳鼻咽喉科外來患者臨牀講義	耳鼻咽喉科檢査法實習	小兒科學	小兒科臨牀講義	小兒科外來患者臨牀講義	種痘實習	精神病學	精神病學臨牀講義	精神病科外來患者臨牀講義	○醫學史	○醫事法制	○社會醫學	○物理的療法	○比較解剖學					
隨時			一																
			一	△															
	△	二	二		△	△	一							△					
	△	二			△		一							△					
	△	二			△		一	•						△					

	○人類學	○遺傳學	○特殊講義	總計	二六	一八	二二	一九	一六	七	二六	二六	二七	二八	二五	二五			

備考　學科中ノ○印ハ隨時トス

△印ハ學生ヲ數組ニ分ツモノトス

特殊講義ハ醫學ノ各分科中ノ特殊事項若クハ醫學ノ隣接科學中ノ緊要ナル題目ニ就キ其專門攻究者ニ依囑シテ開講スルモノトス

第四條　學生ハ解剖學(組織學ヲ含ム)生理學、醫化學、細菌學、病理學及藥物學ヲ學修シタル後ニアラザレバ臨牀講義ニ出席スルコトヲ得ズ

第三章　入學、在學、休學、退學、轉學及除籍

第五條　入學ハ第一學期ノ始メニ於テス

第六條　本學ニ入學ヲ許可スベキモノハ高等學校及學習院ノ高等

科ニ於ケル理科卒業者タルヲ要ス

但シ入學志願者ノ數收容豫定數ヲ超過シタルトキハ選拔試驗ヲ行フ

第七條　前條ノ入學志願者ヲ收容シ猶缺員アル場合ニ限リ左ノ資格者ニ限リ記載ノ順位ニ依リ入學セシムルコトアルベシ

一、帝國大學及官立大學ヲ卒業シタル學士

二、高等學校及學習院ノ高等科文科卒業者

三、大學豫科修了者

四、醫學專門學校醫學科卒業者ニシテ相當ノ學力アリト認メタルモノ

五、本學ニ於テ試驗ヲ行ヒ高等學校高等科ヲ卒ヘタル者ト同等以上ノ學力アリト認メタル者

但シ試驗ハ之ヲ高等學校ニ委託スルコトアルベシ

第八條　帝國大學醫學部及他ノ醫科大學々生ニシテ本學ニ轉學ヲ

望ム者ハ缺員アル場合ニ限リ入學ヲ許可スルコトアルベシ

第九條　本學々生ニシテ退學シタル者再ビ入學ヲ請フトキハ缺員アル場合ニ限リ入學ヲ許可スルコトアルベシ

第十條　入學志願者ハ入學願書ニ履歷書體格檢查證及卒業又ハ修業證明書ヲ添ヘ二月十五日迄ニ學長ニ願出ヅベシ

但シ前項ノ期限後ト雖モ尙ホ缺員アル場合ニ於テハ四月五日迄願書ヲ受理スルコトアルベシ

第十一條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ宣誓ヲナシ學生名簿ニ署名シ戶籍謄本一通ヲ差出スベシ

第十二條　學生疾病其他ノ事故ニヨリ二箇月以上修學ヲ中止セントスルトキハ醫師ノ診斷書若クハ明細ナル理由書ヲ添ヘテ願書ヲ提出シ學長ノ許可ヲ得テ休學スル事ヲ得

第十三條　學生ニシテ陸海軍兵役ニ服スル者ハ其現役又ハ召集中

休學ヲ許可ス

第十四條　前二條ニヨル休學者ニシテ休學期間ト雖モ其ノ事故止ム時ハ願ニヨリ復學ヲ許可スルコトアルベシ

第十五條　休學ハ兵役ニ服スル場合ヲ除キ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

但シ特別ノ事情アル者ニハ更ニ一年以内ノ休學ヲ許可スルコトアルベシ

第十六條　學生ニシテ退學セント欲スルモノハ願書ヲ差出シ學長ノ許可ヲ受クベシ

第十七條　學生ニシテ他ノ大學ニ轉學セント欲スル者ハ其ノ理由ヲ詳記シ學長ニ願ヒ出ヅベシ其ノ許否ハ兩學間ノ協定ニ依ル轉學ヲ許可セラレタルモノハ除籍ス

第十八條　在學八年ニ及ビテ猶卒業セザル者ハ除籍ス

休學期間ハ之ヲ算入セス

在學期間ニハ他ノ醫科大學ニ於ケル在學年限ヲ通算スルモノトス

第十九條　前條ノ期間内ト雖モ疾病其ノ他ノ事故ニヨリ成業ノ見込ナシト認メタルトキハ退學ヲ命ズルコトアルベシ

第四章　試驗及卒業

第二十條　大學令第十條ニヨル試驗ハ學生ノ申請ニ依リ次ノ學科ニ就キ之ヲ施行ス

解剖學（組織學ヲ含ム）
生理學
醫化學
細菌學
病理學
藥物學
内科學

外科學
産科婦人科學
眼科學
精神病學
小兒科學
皮膚科泌尿器科學
耳鼻咽喉科學
衛生學
法醫學

第二十一條　學生ハ各科目ニ付規定ノ期間聽講及實習ヲ修了シタル者ニアラザレバ試驗ヲ申請スルコトヲ得ズ

第二十二條　解剖學(組織學ヲ含ム)生理學、醫化學、細菌學、病理學及藥物學ノ試驗ニ合格シタル者ニアラザレバ爾餘ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ズ

第二十三條　試驗ハ學期ノ終リニ施行シ其ノ期日ハ二週間前ニ之ヲ掲示ス

但シ時宜ニヨリ學期中ニ於テ行フコトアルベシ

第二十四條　受驗ノ申請ハ試驗期日ノ掲示後一週間以内トス

第二十五條　試驗ハ其ノ學科擔任ノ教官之ヲ施行ス

擔任教官事故アル時ハ他ノ教官之ヲ施行スルコトアルベシ

第二十六條　病氣其ノ他ノ止ムヲ得ザル事故ニヨリ試驗ニ出席スルコト能ハザル者ハ醫師ノ診斷書若クハ其ノ理由書ヲ添付シ試驗前日迄ニ之ヲ學長ニ届出ツベシ

第二十七條　前條ノ事由ニヨリ全部若クハ一部ノ試驗ヲ受クルコト能ハザル者ハ敎授會ノ議ヲ經テ追試驗ヲ行フコトヲ得

第二十八條　第二十六條ノ手續ヲ履行セズシテ試驗期日ニ出席セザルモノニハ前條ヲ適用セズ

第二十九條　試驗ノ成績ハ合格不合格ノ二トス

第三十條　或學科ノ試驗ニ於テ不合格ノ成績ヲ得タル者ハ同一學期ニ於テ再ビ受驗スルコトヲ得ズ

第三十一條　四年以上在學シ規定ノ全受驗科目ニ合格シタル者ヲ卒業者トシ之ニ卒業證書ヲ授與ス

第三十二條　前條ノ卒業者ハ醫學士ノ稱號ヲ用フルコトヲ得

第五章　試驗手數料、入學料及授業料

第三十三條　第六條但書第七條第五項ニヨリ試驗ヲ受クル者ハ試驗手數料トシテ豫メ金拾圓ヲ納付スベシ

第三十四條　入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金拾圓ヲ納付スベシ

第三十五條　授業料ハ一箇年百圓トシ第一學期金參拾五圓第二學期金參拾五圓第三學期金參拾圓ニ分納セシム納入期日ハ別ニ定ム

第八條ニヨリ轉學ヲ許可セラレタル者及第九條ニヨリ再ビ入學ヲ許可セラレタル者モ前項ニ準ズ

但シ大正十四年三月三十一日以前ノ入學者ハ舊規定ニ依ル

第三十六條　轉學シ退學シ除籍セラレタル者又ハ退學ヲ命セラレタル者ニモ其ノ學期ノ授業料ハ之ヲ徵收ス

第三十七條　一期ヲ通シテ休學ヲ許可セラレタル者ニハ其ノ期ノ授業料ヲ徵收セズ

但シ休學者ニシテ中途復學シタルトキハ其ノ學期ヨリ之ヲ徵收ス

第三十八條　既納ノ料金ハ如何ナル理由アルモ之ヲ返付セズ

第三十九條　授業料納付ノ義務ヲ怠リタルトキハ講義實習ニ出席シ又ハ圖書ヲ閱覽スルコトヲ禁止シ其ノ情狀重キ者ハ之ヲ除籍ス

第六章　服裝

第四十條　學生ハ本學所定ノ制服及制帽ヲ着用スベシ

第七章　懲戒

第四十一條　學生ニシテ本分ニ悖リタル行爲アル場合ニハ學長ハ教授會ノ意見ヲ徴シ之ヲ懲戒ニ處ス

一、戒飭
二、停學
三、放

第八章　外國學生

第四十二條　外國人ニシテ本學ニ入學セントスル者アルトキハ明治三十四年文部省令第十五號ノ定ムル所ニヨリ之ヲ許可ス

第四十三條　外國學生ニシテ本學所定ノ試験ニ合格シタル者ニハ本人ノ願ニ依リ學力ヲ檢定シ高等學校高等科卒業ト同等以上ト認メタルトキハ卒業證書ヲ授與スルコトヲ得

第四十四條　外國學生ニシテ高等學校高等科卒業程度ノ試験ニ合

格シタル者ハ普通學生トシテ入學ヲ許可ス

第四十五條　外國學生ニハ本學々生ニ關スル規程ヲ準用ス

第九章　專攻生

第四十六條　本學授業擔任者ノ指導ヲ受ケ特ニ專門學科ニ就キ研究セントスル者ハ專攻生トシテ入學ヲ許可ス

第四十七條　專攻生タラント欲スル者ハ願書ニ履歷書及卒業證書寫ヲ添ヘ指導者ヲ經テ願出ツベシ

第四十八條　專攻生タルコトヲ得ル者ハ左記ノ一ニ該當スルコトヲ要ス

一、大學卒業者
一、醫學專門學校卒業者
一、授業擔任者ニ於テ適當ノ學力アリト認メタル者

第四十九條　專攻期間ハ二箇年以内トス

但シ時宜ニヨリテハ延期ヲ許可スルコトアルベシ

第五十條　專攻生ニハ願ニヨリ其ノ研究科目ニ付證明書ヲ附與ス」

第五十一條　專攻生タルコトヲ許可セラレタル者ハ金拾圓ヲ納付スベシ

第五十二條　研究費ハ教室ノ設備ニ附帶スルモノヽ外總テ專攻生ノ負擔トス

但シ時宜ニヨリテハ特ニ研究材料ヲ給與スルコトアルベシ

附　則

第五十三條　本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉岡山醫科大學研究科規程

第一條　本學卒業者ニシテ研究科ニ入ラント欲スル者ハ其ノ研究事項ヲ具シ學長ニ願出ツベシ學長ハ教授會ノ議ヲ經テ之ヲ許可ス

第二條　本學卒業者ニアラサル者ニシテ研究科ニ入ラント欲スル者ハ研究事項ヲ具シ學業履歷書ヲ添ヘテ願出ツベシ學長ハ教授會ノ議ヲ經テ之ヲ許可ス

但シ時宜ニヨリテハ其ノ學力ヲ檢定スルコトアルベシ

檢定ヲ受クル者ハ入學檢定料金貳拾圓ヲ前納スベシ

既納ノ料金ハ如何ナル事由アルモ之ヲ返付セズ

第三條　研究科學生ノ指導ハ學長ノ選定シタル教官之ヲ擔任ス

第四條　研究科學生ノ在學期間ハ二箇年トス

研究ノ必要ニヨリ引續キ在學セント欲スル者ハ當該教官ヲ經テ學長ニ願出ツベシ學長ハ教授會ノ議ヲ經テ一箇年毎ニ之ヲ許可ス

第五條　研究科學生在學中ハ學長ノ許可ヲ得ルニアラザレバ他ノ業務ニ從事スルコトヲ得ズ

第六條　研究科學生ハ指導教官及擔任教官ノ承認ヲ得テ本學ノ講義實習及實驗等ニ出席スルコトヲ得

第七條　研究科學生ハ研究料トシテ一箇年毎ニ金五拾圓ヲ前納スベシ

研究科學生ニシテ兵役ニ服スルモノニハ其ノ服役中研究料ヲ免除ス

但シ中途退學又ハ兵役服務中モ既納ノ料金ハ之ヲ返付セズ

第八條　研究科學生ニシテ學術研究旅行ヲ要スルトキハ教授會ノ議ヲ經テ旅費日當ヲ補給スルコトアルベシ

第九條　研究科學生ハ在學滿期ニ至ルトキハ其ノ研究成績ヲ指導教官ヲ經テ學長ニ報告スベシ

第十條　研究科學生ニシテ學位ヲ得ント欲スル者ハ在學二年以上ヲ經タル後其ノ研究事項ニ就キ論文ヲ學長ニ提出スベシ學位ヲ請求セザルモ相當ノ研究ヲ爲シタリト認ムル者ニハ學長ハ證明書ヲ附與スルコトアルベシ

第十一條　研究科學生ニシテ教授會ニ於テ研究ノ實ナシト認メラレタルトキハ學長ハ之ニ退學ヲ命ズ

第十二條　研究科學生ハ本規程ノ外總テ本學ノ學則ニ從フモノトス

第十三條　研究科學生中學力優秀志操堅實ナル者ハ特選給費學生トナシ學資ヲ給與スルコトアルベシ

第十四條　特選給費學生ノ學資ハ一人月額金七拾五圓以内トシ二年間之ヲ給ス

但シ必要アルトキハ教授會ノ議ヲ經テ更ニ期限ヲ定メテ之ヲ繼續スルコトヲ得

特選給費生ニハ研究料ヲ徴收セズ

第十五條　特選給費生ニシテ其ノ資格ニ缺クル者アルトキハ教授會ノ議ヲ經テ學長之ヲ免ス

附　則

第十六條　本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉岡山醫科大學副手規程

第一條　岡山醫科大學ニ副手ヲ置ク無給トス

但シ時宜ニヨリテハ有給ト爲スコトアルベシ

第二條　副手ハ研究科學生、學士若クハ學士ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノニ限リ學長之ヲ囑託ス

第三條　副手ハ教授及助教授ノ指揮ヲ承ケ學術又ハ診療ニ關スル職務ニ服ス

附　則

第四條　本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉岡山醫科大學附屬醫院規程

第一條　附屬醫院ハ醫學ノ教授及研究ノ目的ヲ以テ患者ノ診療ヲ
　ナス所トス

第二條　患者ヲ分チテ入院患者及外來患者ノ二種トス

第三條　入院患者ハ官費及私費トス
　但シ私費ヲ以テ治療ヲ受ケント欲スル者モ其ノ病症ニヨリテ
　ハ之ヲ許可セザルコトアルベシ

第四條　外來患者ハ官費及私費トス
　但シ官費患者ノ種類及數ハ時宜ニヨリ之ヲ定ム

第五條　本規程施行ニ關スル細目ハ學長之ヲ定ム

附　則

第六條　本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

岡山醫科大學附屬醫院産婆看護婦養成科規則

第一條　岡山醫科大學附屬醫院ニ産婆看護婦養成科ヲ置ク

第二條　本科ハ産婆看護婦ニ必要ナル學科技藝ヲ教授スルモノトス

第三條　修業年限ハ二箇年トシテ一年ヲ二學期ニ分ツ

第四條　學科及其ノ教授時間ハ左ノ如シ

但シ教授時間ハ時宜ニ依リ伸縮スルコトアルベシ

學年	第一學年		第二學年	
科目＼學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
修身衛生法規	一	一	一	一
解剖學	四	四		
生理學	四	四		
藥物學	一			

學年	第一學年		第二學年	
科目＼學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
調劑學		二		
藥品取扱法	一			
内科看護學（傳染病看護法豫防法及其他）		二		
外科看護學（消毒法及其他）		二		
特殊看護學（救急療法其他）		二		
患者運搬法		一		
醫療機械取扱法		一		
繃帶學		二		
衛生學	二	四	二	
正規妊娠、産褥及其取扱法	二	二	一	
異常妊娠、分娩、産褥及其取扱法	二	二	一	
初生兒取扱法		一	一	
初生兒疾病ノ大意		一	一	
産婆模型演習		一	一	

産婆實地演習				
産婆學臨牀講義				
婦人科疾病一般ノ取扱法				
計	一七	一六	二二	
	一七			
	二五	一	一	
	二四	一	一	

備考　表中ノ數字ハ毎週ノ授業時間數ヲ示ス

前項ノ外課外トシテ時文、裁縫、作法竝ニ割烹ヲ教授ス

第五條　生徒ハ實習ノ爲メ本院内ニ勤務スルモノトス

第六條　休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

日曜日、大祭祝日、本學記念日、地久節、夏季休業（八月一日ヨリ同月三十一日迄）、冬季休業（十二月二十五日ヨリ翌年一月七日迄）

第七條　生徒ノ入學期ヲ毎年四月及十月ノ二回トス

第八條　入學志願者ハ左ノ資格ヲ有シ入學試驗ニ合格シタルモノニ限ル

一、品行端正　身體健全ナルモノ

一、年齢滿十六年以上三十年以下ノ女子ニシテ配偶者ナク且家事ニ係累ナキモノ

一、高等小學校ヲ卒業シタルモノ若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノ

第九條　生徒ヲ分チテ給費生及自費生トス

給費生ニハ月手當前學年間ハ金拾五圓後學年間ハ金拾八圓ヲ支給シ且作業服ヲ貸與シ院内ニ宿泊セシム

但シ食費及所用文具、書籍、寢具等ハ自辨トス

自費生ハ總テ通學トシ授業料年額金拾六圓ヲ四月、七月、十月、一月ノ四回ニ前納セシム

但シ實習中院内ニ宿泊セシムルコトアルベシ

第十條　入學志願者ハ左ノ書式ニ依リ願書ヲ差出スベシ

入學願

私儀產婆看護婦生徒(給費)(自給)志願ニ付御試驗ノ上入學御許可被成下度履歷書及戶籍謄本相添ヘ此段相願候也

本　籍
現住所
族籍、戶主又ハ誰何女

年月日　　本　人　何　某㊞

本人ハ身元確實ナル者ニ相違無之仍テ保證候也

本　籍
現住所
族籍、職業

保證人　何　某㊞

岡山醫科大學附屬醫院長何某殿

履歷書

學　業

一何年何月何日何學校ニ入リ何年何月何日ヨリ何某ニ就キ何學修業
一何年何月何日卒業

業　務

一何年何月何日何業ニ就キ月俸又ハ日給何程
一何年何月何日何々ニ依リ依願免職等
一何年何月何日何々ノ故ヲ以テ受賞

右之通リ相違無之候也

年月日　　何　某㊞

右

第十一條　入學試驗ハ左ノ科目ニ就キ高等小學校卒業程度ニ依リ之ヲ行フ

一、體格　二、讀方　三、作文　四、算術

第十二條　生徒入學ノ許可ヲ得タルトキハ左ノ書式ニ依リ誓約書ヲ差出スベシ

保證人ハ男子ニシテ身元確實ナル成年以上ノ戸主二人トシ內一名ハ岡山市內若クハ附近町村ニ居住スルモノタルベシ

誓約書

今般貴院產婆看護婦生徒ニ御採用相成候ニ就テハ御規則堅ク相守ルベキハ勿論在學中某一身上ニ係ル事件ハ保證人兩名ニ於テ一切（引受申スベク）措辨致且萬一在學中ノ學資辨償ヲ命セラルヽ場合連帶ヲ以テ其義務ヲ果スヘク）仍テ誓約候也

年　月　日

本人　何　某㊞
本籍
現住所
族籍、戸主又ハ誰何女

保證人　何　某㊞
本籍
現住所
族籍、職業

岡山醫科大學附屬醫院長何某殿

保證人　何　某㊞
本籍
現住所
族籍、職業

第十三條　生徒ハ總テ院内ノ規則ヲ遵守シ講師、掛員、看護長及産婆長ノ指揮ニ從フベシ

第十四條　試驗ハ進級卒業ノ二種トシ第一學年ノ終リニ進級試驗ヲ第二學年ノ終リニ卒業試驗ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書

族籍　何某

年月日生

右ハ本院所定ノ産婆學看護學ヲ修メ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年月日

岡山醫科大學附屬醫院長官位勳爵氏名　印

第十五條　試驗ノ成績ハ各科目百點ヲ以テ最高點トシ一科目四十點以上平均六十點以上ヲ以テ及第トス

第十六條　生徒ニシテ成業ノ見込ナキモノ又ハ不都合ノ行爲アルモノニハ退學ヲ命ズ

第十七條　給費生ニシテ中途退學ヲナスモノ若クハ退學ヲ命ゼラレタルモノ又ハ卒業後第十八條ノ義務ヲ盡サザル者ハ其ノ情狀ニヨリ講習中給與シタル學資ノ全部又ハ其ノ幾分ヲ償還セシムルコトアルベシ

第十八條　給費生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ滿一箇年間成規ニ依リ給料ヲ受ケ本院ノ看護婦トシテ勤務スル義務アルモノトス

◉岡山醫科大學附屬圖書館規程

第一條　圖書館ハ本學所屬ノ圖書ヲ處理シ又ハ本學ニ委託セラレタル圖書ヲ保管スル所トス

第二條　圖書館長ヲ置キ本學教授中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

第三條　圖書ノ出納ハ圖書係員之ヲ掌ル

第四條　圖書館ニ閱覽室ヲ設ケ各科共用ノ圖書其ノ他ヲ陳列シ閱覽ニ供ス

第五條　各教室ニ於テ備付ヲ要スル圖書ハ主任教授之ヲ管理ス

第六條　圖書ヲ借受ケテ携出シ得ルモノハ本學職員研究科學生及專攻生ニ限ル

但シ借受册數ハ壹名拾册ヲ超過スルコトヲ得ズ

借用者ノ轉職又ハ退職ノ際ハ直ニ其ノ圖書ヲ返納スベシ

第七條　圖書ヲ借受ケ携出セントト欲スル者ハ所定ノ用紙ニ記入ス

ルコトヲ要ス

各教授保管ノ圖書ニ就キテモ亦同シ

第八條　圖書貸出期間ハ二十日以内トス

第九條　貸出圖書ハ期間内ト雖モ毎年七月一日ヨリ十日迄ニ一旦返納スベシ

但シ必要アルトキハ臨時返戻ヲ要求スルコトアルベシ

第十條　閲覧室ニ於テ圖書ヲ閲覧セント欲スル者ハ借覧票ニ記入シテ係員ニ提出シ閲覧終リタルトキハ直ニ之ヲ返付スベシ

閲覧時限ハ隨時之ヲ掲示ス

第十一條　本學職員及學生以外ノ篤志研究者ニシテ圖書ノ閲覧ヲ請フ者アルトキハ圖書館長ニ於テ許可ヲ與フルコトアルベシ

但シ閲覧手續ハ前條ニ依ル

第十二條　圖書閲覧者ハ本規程ヲ遵守シ又ハ室内ニ於ケル掲示事項及係員ノ指揮ニ從フベキモノトス

第十三條　諸官廳學校又ハ本學職員以外ノ者ヨリ圖書借受ノ照會アル際ハ圖書主任ハ圖書館内ノ圖書ニ限リ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ許可ス

但シ其ノ際所要ノ圖書及借用期間(二十日以内)ヲ記入セル借用證書ヲ圖書館ニ提出スベシ

第十四條　閲覧者又ハ借用者ニシテ其ノ圖書ヲ紛失毀損又ハ汚染シタルトキハ同一圖書ヲ以テ辨償セシム

但シ時宜ニヨリテハ代金ヲ以テ之ヲ辨償セシメ或ハ修繕費ヲ負擔セシムルコトアルベシ

第十五條　各教室ニ保管セル圖書ヲ紛失毀損又ハ汚染シタル場合ハ保管者ヨリ始末書ヲ提出スルモノトス而シテ其ノ事由ニヨリテハ前條ヲ適用スルコトアルベシ

附　則

第十六條　本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉岡山醫科大學奬學資金規程

第一條　本學々生及本學ニ於テ研究ニ從事スル者ニ對シテ奬學ノ爲メニ資金ヲ寄附セントスル者アルトキハ之ヲ許容スルコトアルベシ

奬學資金ニハ寄附者ノ名義ヲ附スルコトヲ得

第二條　寄附者ハ其ノ資金ニ對シ一定ノ條件ヲ附スルコトヲ得

第三條　寄附者ニ於テ一定ノ指定ヲ爲サヽルトキハ敎授會ノ議ヲ經テ學長之カ支辨ノ途ヲ定ム

第四條　貸費及給費等ニ關スル細目ハ別ニ之ヲ定ム

奬學資金

寄附者氏名	寄附年月日	寄附金額	目的
上坂熊勝	大正十五年十一月三十日	五分利公債證書額面二千圓	利子ヲ本學學生奬學ノ資ニ充ツルモノトス
菅忠芳	大正四年六月十七日	四分利公債證書額面二千三百圓	利子ヲ本學學生奬學ノ資ニ充ツルモノトス

◉學生

大學生

第四年　大正十二年入學　二十九人　（イロハ順）

市村丑雄	岡山	伊藤駒雄	犬分
太田原一祥	岡山	音田德太郎	大阪
吉田豐太	岡山	横山秀三	島根
永山太郎	岡山	村山高新	潟
山口節郎	和歌山	松森明福	井
佐藤國男	兵庫	佐伯純一	大阪
廣田照輝	山口	平井出正三	愛知
勝呂學	靜岡		
井手又藏	佐賀	劉雄	支那
加藤暢靜	岡	河本清	岡山
田端健久	和歌山	佃毅	香川
上野博	岡山	熊本正熙	福岡
田豐和	歌山	新勇群	馬
菊田兵三	宮崎	宮田貞二	山口
一郎	岡山	森長秀	東京

第三年　大正十三年入學　五十一人　（イロハ順）

岩藤良	秋岡山	岩井知義	兵庫
林孝彥	廣島	濱田英治郎	岡山
土岐龍三	岡山	藤間靜	島根
岡村好幸	和歌山	生山昌敏	山梨
鎌倉貢	廣島	橫山丈夫	鹿兒島
原田要一	岡山	橋本亨	熊本
西村虎夫	宮崎	董道善	支那
趙俯願	支那	大栗清實	德島
織戶亨	大分	香取正倫	千葉
立野清一	山口	立花岩吉	岡山

田中敬三兵庫　土屋敏正兵庫
氏家貫三東京　上野勝太郎島根
山根馨岡山　松波賢吾岐阜
牧野博岡山　正岡旭廣島
藤野源三愛媛　福本久兵庫
幸月富士昌山口　阿久澤大重群馬
齋藤出羽栃木　三谷登岡山
森田一雄岡山　森秀齋京都
村上立男岡山　鵜山義治島根
栗林太郎大分　日下連岡山
松浦三郎兵庫　松村光雅栃木
前田茂兵庫　藤原東一郎岡山
福井元之輔青森　古田壽次岡山
佐々木才一郎三重　佐藤幹島根
三木良定兵庫　檜垣律夫廣島
末岡悟山口

第二年　大正十四年入學　五十七人　（イロハ順）

石田憲吾廣島　石川適岡山
蜂谷道彦岡山　花田正夫岡山
大島松一岡山　大野慶文京都
河合郁二兵庫　加藤五郎靜岡
吉田和男岡山　吉田六朗奈良
田代喬島根　武信芳郎東京
山本靖造岡山　馬詰征平兵庫
安井彌八兵庫　藤岡晋岡山
佐藤悌大分　佐藤喬岡山
佐藤信平新潟　齋藤義次岡山
飯尾勝海島根　市丸謙介福岡
本郷善次郎熊本　帆足九萬三大分
小野田良一岡山　小田敬進岡山
葛城雷次郎福岡　龜山茂松福岡
高橋重勝熊本　高畠正夫岡山
谷尚一兵庫　中田敏哉島根
桑原良一岡山　藏本積廣島
小林章二廣島　後藤勇長野
佐藤秋夫岡山　佐藤進六香川
最所勝英佐賀　笹澗交連熊本

木屋梓福岡　木村誠七郎新潟
三上達郎島根　三木行治岡山
湊次郎山口　白石功熊本
神藤達男富山　桃井寛次島根
玉木康允香川　陶山義正島根
岸毅郎島根　北義保兵庫
三舟淳夫德島　宮崎義則愛媛
進藤眞作兵庫　清水勝京都
鈴木章岡山

第一年　大正十五年入學　六十三人　（イロハ順）

石原忠之岡山　石川正次兵庫
星島忠夫岡山　富田廉三廣島
太田克岡山　大塚蕃岡山
小川壽岡山　小口貞雄長野
渡邊久武香川　加藤照夫靜岡
横山衛岡山　吉宗泰次大阪
高田弘岡山　田隅克巳兵庫
根岸五郎岡山　中村孟廣島
中山一彥福岡　中西秀征佐賀
浦城二郎三重　野口武夫愛媛
熊井孝三山口　桑原利勝大分
松田義秋奈良　松本茂人廣島
小西信雄廣島　古林隆碩岡山
岩崎國衛新潟　岩永勘一長崎
友廣忠正大阪　飛谷忠弘香川
大重實造鹿兒島　小田源太郎岡山
岡村榮雄長崎　越智幸雄愛媛
河原省平岡山　象田三郎青森
高見孝志岡山　高橋熊男宮城
玉井元三愛媛　玉尾延忠岡山
中村俊雄山口　中西正男岡山
永光軍一郎福岡　宗守武雄廣島
黒田秀隆岡山　廚董長崎
山本好之助岡山　山田一郎神奈川
松山啓助熊本　福本清治兵庫
遠藤虎之助香川　喜多島愼一岡山

水野知文　廣島　水谷一輝　香川
廣津格大　分　本松明福　岡
菅龍正　廣島　鈴江榮德　島

研究生

西村慶次　兵庫　大塚胗三　岡山

專攻生

松波哭太郎　岐阜　田丸要槌　岡山
吉岡好助　山口　富岡敏哉　佐賀
藤森眞治　兵庫　蓮池堯民　廣島
松浦輔彥　廣島　大畑豐鳥　取
篠井尙一　岡山　川口濶岡　山
井上茂京　都　大谷顯三　岡山
岡順二和　歌山　森川尙岐　阜

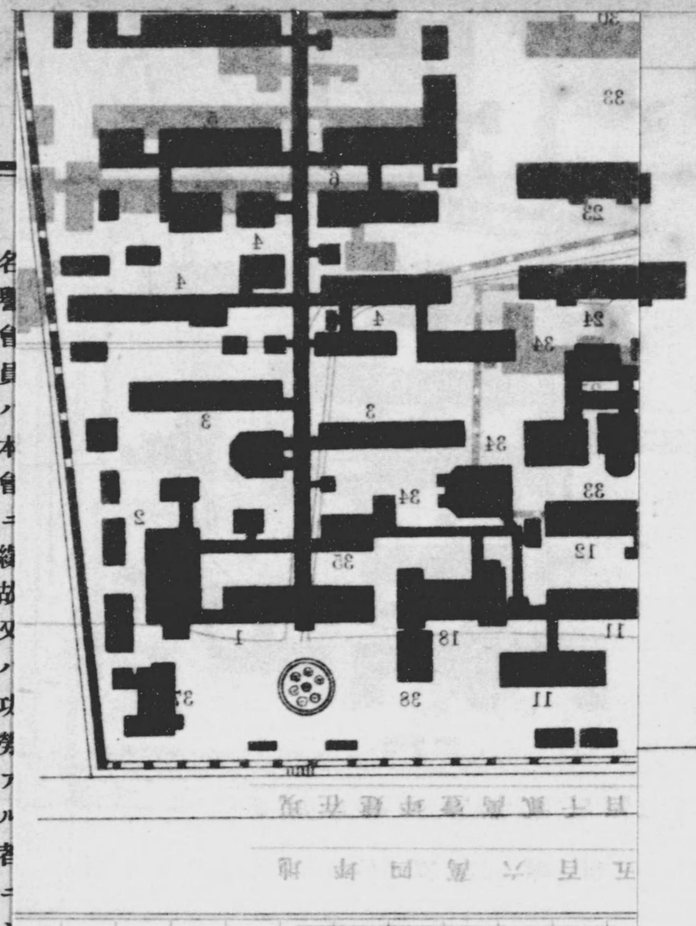
澁谷成利　京都　東島辰雄　佐賀
仙波廣一　愛媛　菅田士郎　岡山
杉佐助高　知　
多田繁廣　島　相原義一　福岡
安武輝一　大阪　岩佐誠一　山口
重信琢雄　廣島　西崎武亥一　岡山
古川浩兵　庫　木村敏太　岡山
岸本春榮　岡山　村上鼎廣　島
小林元一　岡山　日城旭丸　廣島
藤治神奈　川

學生道府縣人員表

道府縣	人員	道府縣	人員
青森	二	岐阜	三
宮城	一	靜岡	四
栃木	二	愛知	一
群馬	二	三重	二
千葉	一	京都	五
東京	三	大阪	五
新潟	四	兵庫	二〇
長野	二	奈良	二
福井	一	和歌山	五
富山	一	島根	二
山梨	一	岡山	六三

廣島	山口	德島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	熊本
二〇	一〇	三	七	六	一	九	五	六

大分	宮崎	鹿兒島	神奈川	長崎	鳥取	支那		合計
七	二	二	二	三	一	三		二二九

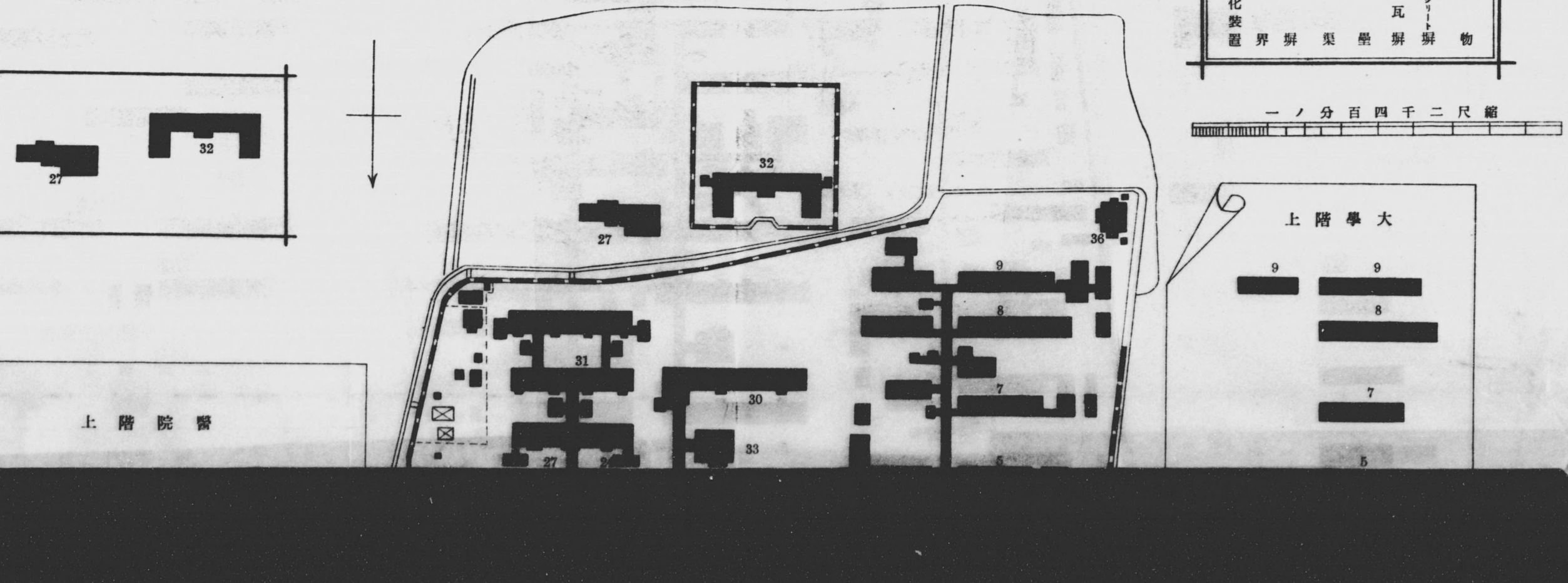


岡山醫科大學平面圖

昭和二年一月一日現在

地坪四萬六百五拾參坪貳合六勺

現在建坪壹萬貳千百九拾參坪貳合壹勺四才

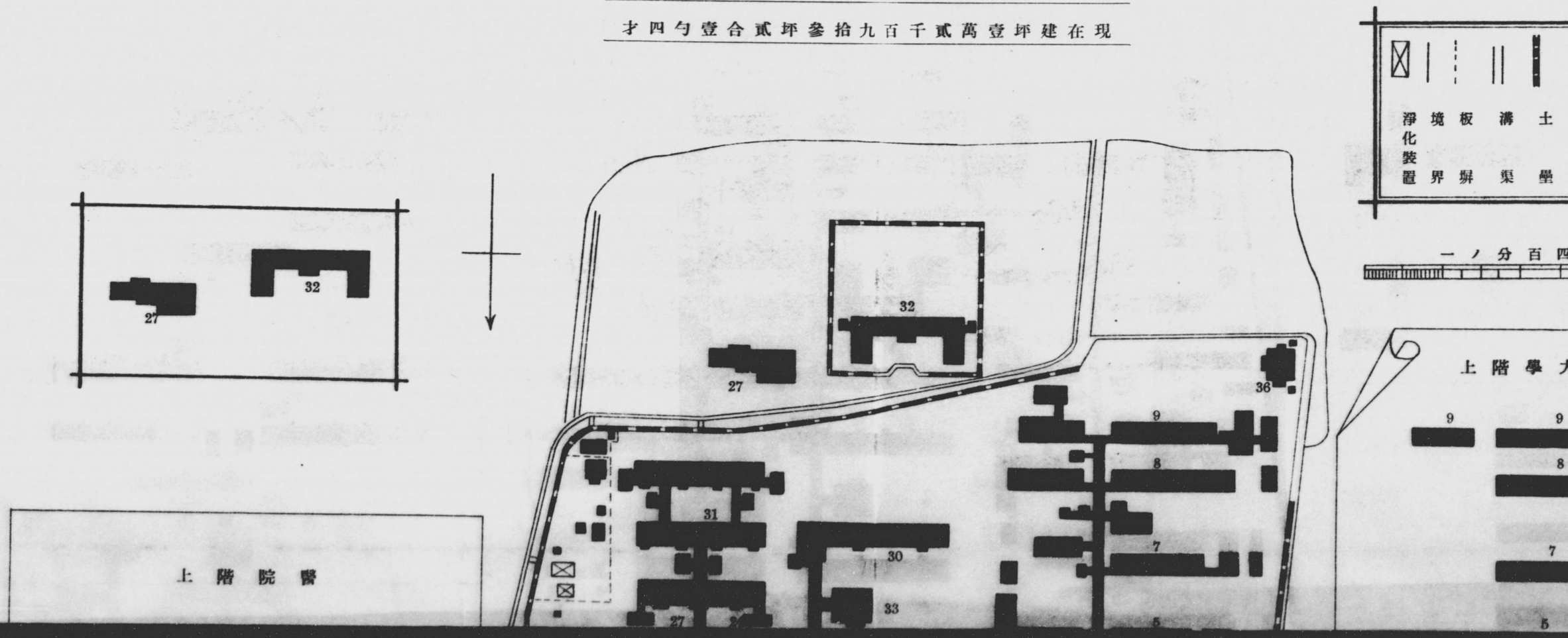


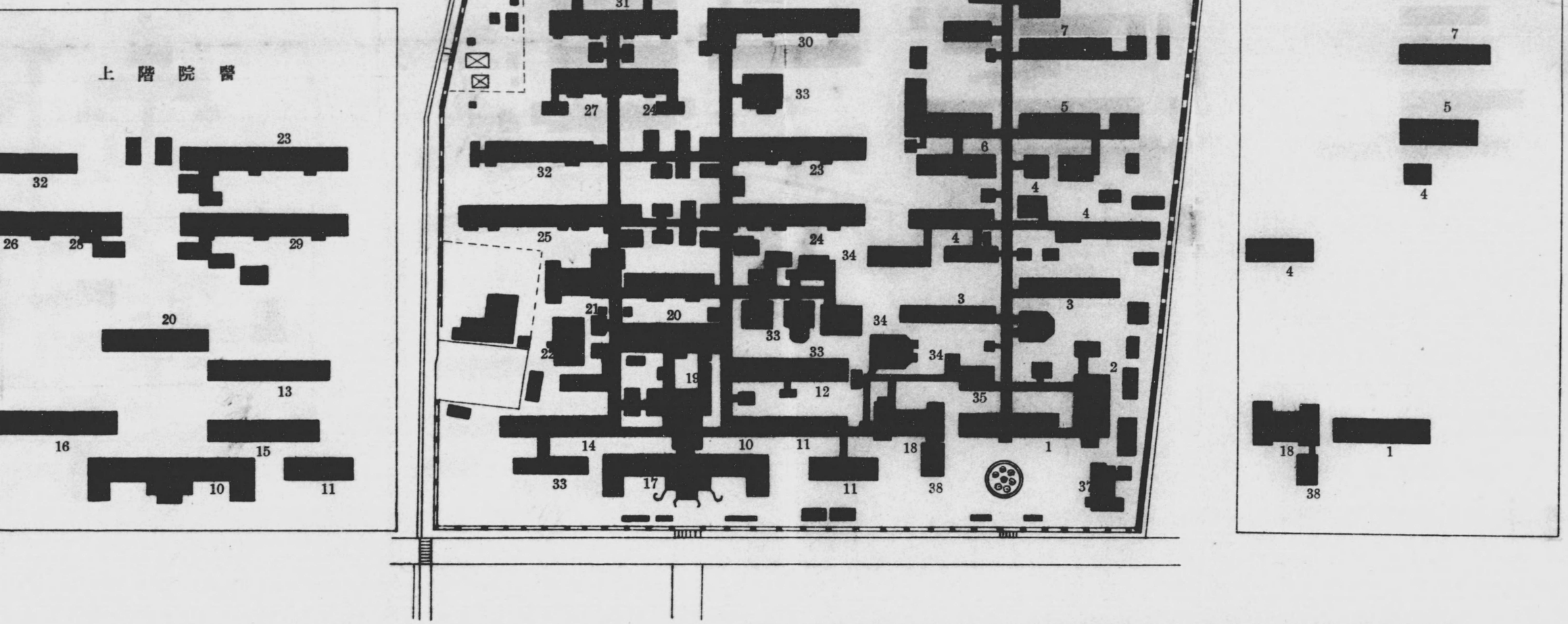
岡山醫科大學平面圖

昭和二年一月一日現在

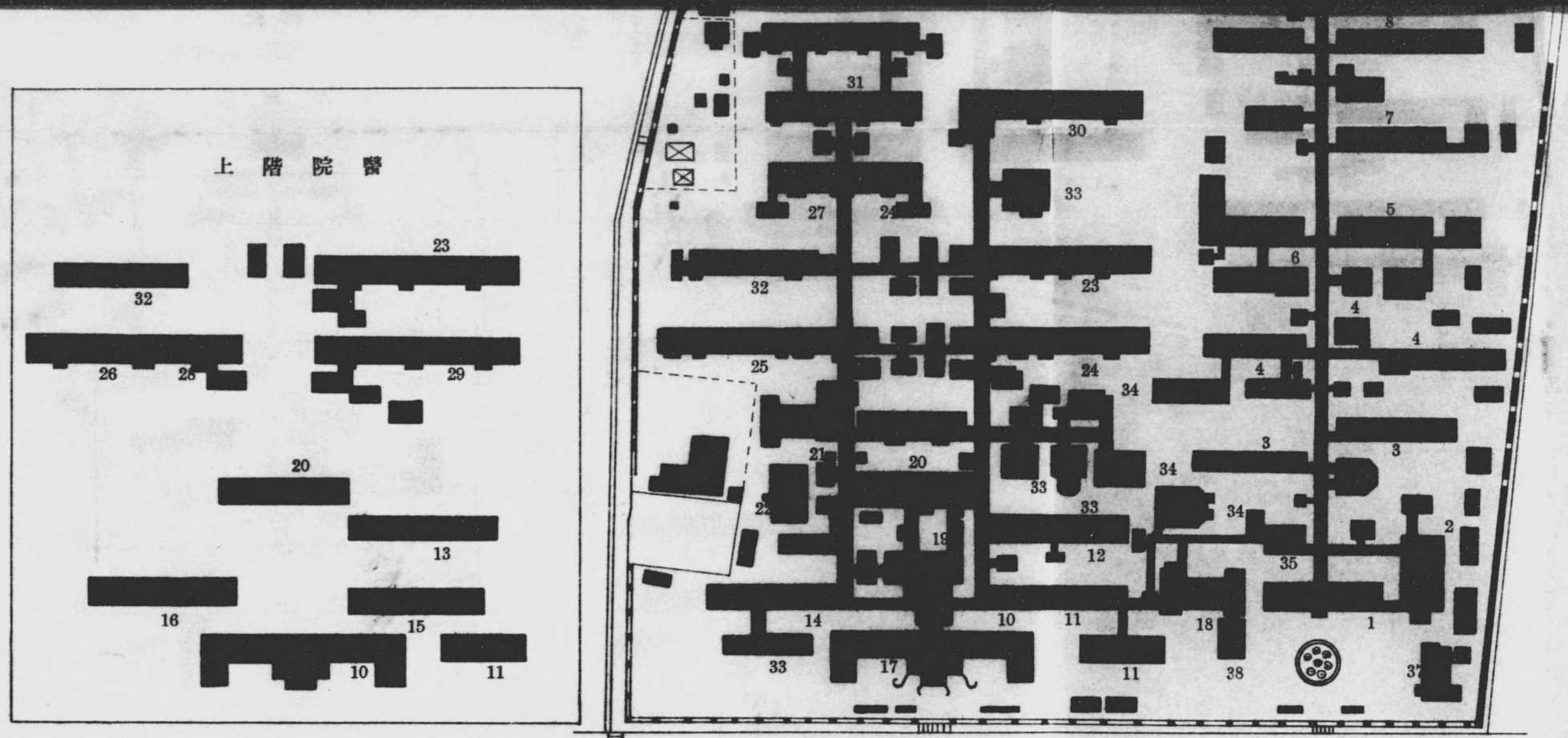
地坪四萬六百五拾參坪貳合六勺

現在建坪壹萬貳千百九拾參坪貳合壹勺四才





38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
書庫	集會場	柔劍道場	學生控所	臨牀講義室	手術室	看護婦寄宿舍	隔離病棟	眼科病棟	皮膚科病棟	耳鼻咽喉科病棟	精神科病棟	小兒科病棟	婦人科病棟	外科病棟	內科病棟	機關場	炊事場	醫院事務室	藥局	レントゲン科	皮膚科泌尿器科學教室	耳鼻咽喉科學教室	精神科學教室	眼科學教室	小兒科學教室	產科婦人科學教室	外科學教室	內科學教室	病理學教室	衛生細菌學教室	醫化學教室	藥物學教室	法醫學教室	解剖學教室	生理學教室	講堂	本館



38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3
書庫	集會場	柔劍道場	學生控所	臨牀講義室	手術室	看護婦寄宿舍	隔離病棟	眼科病棟	皮膚科病棟	耳鼻咽喉科病棟	精神科病棟	小兒科病棟	婦人科病棟	外科病棟	內科病棟	機關場	炊事場	醫院事務室	藥局	レントゲン科	皮膚科泌尿器科學教室	耳鼻咽喉科學教室	精神科學教室	眼科學教室	小兒科學教室	產科婦人科學教室	外科學教室	內科學教室	病理學教室	衛生細菌學教室	醫化學教室	藥物學教室	法醫學教室	解剖學教室	生理學教室

◉附錄

岡山醫科大學學友會規則

第一章　總則

第一條　本會ハ會員相互同心協力シテ德性ヲ涵養シ智識ヲ研磨シ身體ヲ鍛錬シ以テ學風ヲ振作スルヲ目的トス

第二條　本會ハ岡山醫科大學學友會ト稱ス

第三條　本會ハ岡山醫科大學内ニ置ク

第四條　本會ハ左ノ會員ヨリ成ル

通常會員　終身會員

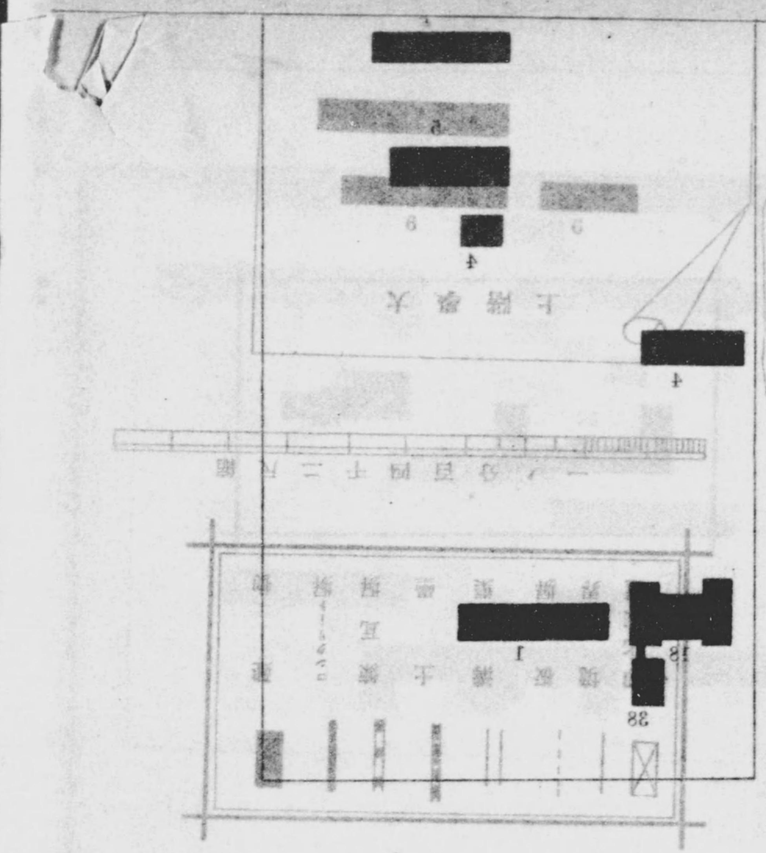
名譽會員　準會員

特別會員

通常會員ハ本學學生、終身會員ハ卒業生ヨリ成ル

特別會員ハ本學學長教授助教授事務官藥局長講師ヨリ成ル

名譽會員ハ本會ニ緣故又ハ功勞アル者ニシテ役員會ノ推薦ニヨ



7	6	5	4	3	2	1
醫學部化學教室	藥學部藥學教室	醫學部醫學教室	醫學部病理學教室	醫學部生理學教室	醫學部	本館

ルモノヨリ成ル

準會員ハ特別會員及終身會員ヲ除ケル本學及附屬醫院職員ニシテ本會ノ事業ヲ翼賛スルモノヨリ成ル

第五條　會員ニシテ本會ノ體面ヲ汚ス行爲アリタルトキハ會長ハ之ヲ除名スルコトアルヘシ

第二章　役員及役員會

第六條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　副會長　部長　主事　委員　書記

會長ハ本會ヲ總理シ會議ノ議長トナル

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

部長ハ當該部一切ノ部務ヲ管理ス

主事ハ本會ノ庶務會計ヲ司ル

委員ハ當該部一切ノ部務ヲ處理ス

書記ハ庶務會計事務ニ從事ス

第七條　會長ハ學長ヲ推戴シ副會長ハ教授中ヨリ會長之ヲ囑託ス

部長ハ教授助教授中ヨリ會長之ヲ囑託ス

但シ部長ハ兼任スルコトヲ得

主事ハ事務官之ニ當ル

委員ハ通常會員ノ互選ニヨリ各級一名宛各部ヘ選出スルモノトス

書記ハ本學事務員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

第八條　役員ノ任期ハ一箇年トシ毎學年ノ始ニ就任スルモノトス」

第九條　役員會ハ會長、副會長、部長、主事、委員ヲ以テ組織ス

第十條　會長ハ毎學年ノ始ニ於テ役員會ヲ招集シ前年度ノ決算及當年度ノ豫算ヲ議ニ附ス

但シ必要ニ應シ臨時役員會ヲ開クコトアルヘシ

役員會ハ出席義務者半數以上ノ出席ナキトキハ開會セス

議決ハ多數決トシ可否同數ノトキハ議長之ヲ決ス

第十一條　規則改正ヲ除キ本會ニ關スル一切ノ事件ハ役員會ノ決議ニヨリ決ス

第十二條　規則改正ハ役員會及總會ノ決議ヲ經會長ノ許可ヲ受クルモノトス

第十三條　規則改正ニ關シ會長ノ提出ニ依ルモノ、外會員中十分ノ一以上ノ贊成ヲ得タルトキハ議題トナスコトヲ得

第三章　集會

第十四條　本會ハ毎學年ノ始ニ於テ定期總會ヲ開ク

但シ會長ハ必要ニ應シテ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

總會ノ議決ハ多數決ニヨル可否同數ナルトサハ議長之ヲ決ス

第四章　部

第十五條　本會ニ左ノ部ヲ置ク

庶務部、文藝部(辯論部ヲ含ム)、劍道部、柔道部、庭球部、卓球部、陸上競技部、野球部、水上部、音樂部、乘馬部、弓道部

第五章　會計

第十六條　本會ノ經費ハ會員ノ會費入會金及寄附金ヲ以テ支辨ス」

第十七條　會員ノ會費額ハ左ノ如シ

通常會員　一箇年拾四圓毎年四月九月ニ授業料ト共ニ分納シ卒業期ニ金五圓ヲ納ムルモノトス

特別會員　俸給年額ノ二百分ノ一ヲ毎月分納ス

名譽會員、終身會員及準會員ヨリハ會費ヲ徵收セス

但シ有志者ノ寄附ハ之ヲ受クルコトアルヘシ

第十八條　通常會員ノ入會金ハ拾五圓トス入會ト同時ニ之ヲ納ム」

第十九條　本會ノ會計事務ハ本學會計課ニ於テ之ヲ取扱フ

第二十條　既納ノ會費入會金寄附金ハ如何ナル場合ニモ返却スルコトナシ

第二十一條　本會ノ事業年度ハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス

第二十二條　部長ハ當該部次年度ノ費用ヲ豫算シ毎年三月末日マテニ會長ニ差出スヘシ

第二十三條　費用ハ部長及委員ノ捺印シタル債權者ノ請求書ニアラサレハ支拂フヘカラス

第六章　選舉

第二十四條　毎年二月ニ於テ次年度ノ委員ノ選舉ヲ行フ

但シ一年級ハ第二學期ノ初メニ於テ委員選舉ヲ行フ

第二十五條　委員ニ當選シタルモノハ猥リニ辭任スルコトヲ得ス」

附則

一　乘馬部、弓道部ノ二部ハ當分ノ内委員ヲ設ケス

二　各部ノ細則ハ各部ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

但シ會長ノ認可ヲ受クヘキモノトス

三　各部ハソノ記錄ヲ作リ毎學年末部長ヨリ會長ニ之ヲ報告ス

◉岡山醫科大學卒業生

（昭和二年一月一日現在）

氏名ノ上ニ×印ヲ附スルハ死亡者

大正十五年三月卒業　二十三人

伊丹　訓吾　岡山　西村伊勢松　岡山　西田　實雄　廣島
奥山美佐雄　岡山　渡邊　傳二　岡山　金光　康生　廣島
竹內　道眞　岡山　中村　博鄕　和歌山　前田　謙二　東京
藤田　富豐　廣島　小池藤太郎　三重　岸岡　精華　岡山
三宅　郁多香　川　進藤　直作　愛媛　廣川　濟　廣島
須藤五一郎　高知　菅田　濱　岡山　×鈴木　鐸郎　宮城

◉元第三高等中學校醫學部
元第三高等學校醫學部卒業生
元岡山醫學專門學校
元岡山醫科大學附屬醫學專門部

氏名ノ上ニ×印ヲ附スルハ死亡者　（一月一日現在）

元第三高等中學校醫學部

明治廿二年七月醫科卒業生　十八人

物部　恭平　岡山　×岸　美之三　島根　×藤田　茂香川　戸田　虎三　岡山
久保湖一郎　愛媛　兒玉三代太郎　廣島　×高根房次郎　岡山　×平原　碩衛　岡山
太田眞三次　岡山　×江見　文夫　岡山　井野千代松三　重　渡邊　純　岡山
×山本喜重郎　岡山　賀川　一郎　德島　×村上　格言　愛媛　×久山隼太郎　岡山
杉田　平助　鹿兒島　×三羽　市夫　岡山

明治廿二年十二月醫科卒業生　四十人

富村　金次郎　島根　松原　朋三　香川　難波　益太　岡山　陶　熙　香川
晴木龜之進　島根　×沖　利喜太　岡山　荒木蒼太郎　岡山　野村　圖吉　岡山
河合佐次郎　愛媛　赤松　是三郎　岡山　×二宮　浩一　岡山　×三上季三郎　岡山
×字野　武　岡山　藤原　鐵太郎　岡山　藤田　荒次郎　岡山　西　修爾　和歌山
高畑　運太　香川　矢野　恒太　岡山　高橋武三郎　岩手　×近藤　恒有　岡山
×芦田松三郎　島根　石岡　繁太郎　岡山　木下　博　和歌山　澄川吉太郎　島根

金田義一郎岡山　菅澤武三郎岡山
×乙部壽之丞岡山　×島田善良愛媛
森脇圓治和歌山　×中平武雄高知
林祥坐高知　×北村虎治岡山

明治廿三年十二月醫科卒業生　四十六人

栗井芳雄岡山　難波貫一岡山
×水川泰亮愛媛　×野村幾男島根
×寺尾浩岡山　×原田源次郎岡山
堀川芳太郎德島　小森纖太郎岡山
×越智豐太郎愛媛　×石川新市島根
五十嵐辰馬兵庫　×藤崎力松島根
×奥山一平奈良　×田野嘉一郎島根
畑榮太郎島根　×堀庫三岐阜
松島朗和歌山　×田代丈之助島根
×水野桂次郎愛知　岡本一之助島根
垣內三郎和歌山　一藤元闢兵庫
河本眞吾岡山　×宮崎武之助佐賀
橫山大藏島根　板津武治岡山
×佐藤敏太郎德島　星靜處廣島
川上佐源太岡山　×曾我部元市德島
佐野澤之助和歌山　北條寬平德島

明治廿四年十二月醫科卒業生　四十三人

山根壽三郎島根　宮本實治山口
三並知夫愛媛　駒井潔兵庫
×林原貞吉郎島根　村上六也京都
小菅芳之助三重　富田龍太郎兵庫
×藤澤克孝岡山　×國方長三郎德島
村上彌穗若島根　×小出龜雄兵庫
堀尾秀之助兵庫　曾我東洋岐阜
×小野田晉哉廣島　×岡靖岡山
×赤澤和作岡山　近元儀助山口
中元寺長風宮崎　藤村富三郎京都
×伊藤顯太郎德島　加藤文郁大分
木谷貴惣太岡山　前田棄次郎京都

明治廿五年十一月醫科卒業生　五十四人

×渡邊榮吉愛媛　×屋葺熊七岡山
山根大學島根　×角準造山口
佐藤茂岡山　吉川熊一郎京都
田宮靈一郎廣島　柳田厚二京都
大道庫治郎京都　高須直一愛媛
×近藤亮太郎京都　姬井只次郎岡山
×渡邊玄肅岡山　×清水卓造大分
神戶雄俊岡山　×黑岩龜壽高知

植木第三郎京都　定田直太郎岡山
×伊藤熊治兵庫　森澤久治京都
柘植宗貞三重　高橋勝彥福岡
×南部啓京都　永海貞三島根
太林森次郎香川　生川善松三重
圖山幾彥岡山　福本欽太郎島根
富井桂治兵庫　永井政忠愛媛
×小西元太郎香川　林清馬山口
水野善一岡山　中野碩兵庫
橫田豐次郎德島

明治廿五年十一月醫科卒業生　五十四人

橫山龜雄岡山
×生田龍太郎德島
長井操兵庫
清水桂次郎愛知
守屋第三岡山
福井泰藏兵庫
大石房次郎島根
增田德太郎奈良

原　竹造　島根　　森本武一郎　島根
楠木鉄治　岡山　　田北信一　山口
利根隨吉　大分　　×和氣熊太郎　岡山
力丸　茂　兵庫　　岡本廣助　兵庫
×木村　雄　兵庫　　×野老山高茂　高知
三木堅二郎　兵庫　　小野寛逸　廣島
齋郷品之助　山口　　×長尾主一郎　大分
×藤川義衛　岡山　　山中藤一郎　岡山
室住儀三郎　德島　　×中村謙吉　長野
吉田武平　岡山　　足達綱福　岡
×近藤元春　和歌山　　畑禎太郎　兵庫

明治廿五年十一月藥學科卒業生　九人

勝山虎三郎　岡山　　寺尾完治　愛媛
森田和平　岡山　　井上福松　岡山
重成八百吉　岡山　　武田愛一　山口
藤原吉二　岡山　　八十川榮太郎　香川
加藤誠治　岡山

明治廿六年十二月醫科卒業生　三十二人

×加納作太郎　岐阜　　梅田覺太郎　廣島
津野長也　兵庫　　×沼本浩　岡山
×山崎信次郎　山口　　板東要太郎　德島
松村洋大　阪　　×西田司馬福　岡
山根亨七　島根　　井阪爲則　德島
武下吉次香　川　　小森甲子良　京都
内田久太郎　岡山　　×陸隆一郎　岡山
横地九三郎　三重　　×渡邊友彧　岡山
樋口繁次郎　滋賀　　×馬島長四郎　德島
和田善次郎　島根　　内藤達　德島
三木龍哉　岡山　　松井隈太　京都
太田喜眞太　岡山　　辻井松之助　京都
門田豐　熊山口　　谷口一郎　岡山
奥平孫太郎　鳥取　　岡崎良吉　京都

松崎章太郎　兵庫　　小笹平三　島根
×服部稔　兵庫　　×日名寛吾　岡山

明治廿六年十二月藥學科卒業生　十五人

古田宗二郎　三重　　山本安吉　山口
大谷金助　島根　　×武藤十郎　岡山
大井安次郎　岡山　　町田覺一郎　岡山
石井奮方　岡山　　木村亥左武　岡山
×勝山和仲　京都　　×岡村磯五郎　京都
檜垣幸作　山口　　×原牧三郎　島根
水川駒次郎　岡山　　野崎廉平　岡山
美甘熊七　岡山

明治廿七年十一月醫科卒業生　三十九人

兒玉惟一　廣島　　尾池元太郎　兵庫
×樋口虎若　愛媛　　×中村悅次郎　島根
宮田潤太郎　島根　　×石原俊吉　岡山
吉川脩一郎　和歌山　　内山鍊吉　京都
勝所桑十大　分　　白木元吉　神奈川
×市原廣助　山口　　×虫明俊三　岡山
三宅修造　和歌山　　×内田忠造　京都
佐野珠悅　島根　　加藤一馬　廣島
×小津眞佐太　岡山　　山本甚市　島根
小泉寶　山口　　鷹津文都　兵庫
麻植巨一　德島　　×吉本勝之助　廣島
河内山政一　山口　　×遠藤三千二　香川
泊傳四郎　島根　　佐藤龜一郎　岡山
浦上一二　岡山　　田中彦三郎　香川
×增岡道太郎　山形　　鷺岡俊平　京都
梅谷幹人　大阪　　陶山鐵治　岡山
中澤千吉　兵庫　　×大竹龜之輔　山口
石丸三郎　愛媛　　山村恒太　香川
三井謙三　香川　　牛窪季矣　京都
上田久太郎　德島

明治廿七年十一月藥學科卒業生　九人

永島　忠三重　光後元太郎岡山　高杉要二郎岡山
堀　林太郎岡山　服部　興福井　小出　修奈良
村田康太郎愛媛　金澤巖岡山　草薙彊兵庫

明治廿八年十一月醫科卒業生　二人

川南　求滋賀　高橋數尙香川

元第三高等學校醫學部

明治廿八年十一月卒業生　六十三人

秦　佐八郎島根　×永富　恕平大分　×香川貞市島根　×田中茂吉和歌山
×石部國治郎島根　金田　正兵庫　三浦幸彌兵庫　×難波立達岡山
松波翼太郎岐阜　佐藤　薫香川　河村益三山口　鍋島三藏香川
小倉　儆愛媛　笠原哲彌大阪　×內山退藏兵庫　土屋近市岡山
松尾　壽太佐賀　西村貞三郎京都　×進藤　進大阪　越智一覺廣島
小倉忠夫廣島　奈良眞三郎岡山　×米澤幸造兵庫　×野津猛男島根
飯田左三三重　吉谷恒三郎大阪　須山　肇島取　和田英太郎大阪
坂東儀八郎香川　土井敬八郎兵庫　須磨輝市廣島　山本膽福井
渡邊忠男鳥取　小田右市三重　岩崎千代松島根　井上英一廣島

五十里董椒福岡　×山崎先多平兵庫　皿井立三郎岡山　山梨信太郎靜岡
×神谷武夫岡山　三宅良一廣島　赤澤乾一廣島　鈴木鼎吉京都
島中雄才奈良　×安部藤隆福岡　山本宗一大阪　柳爲輔山口
×上田發志大分　河原杏平岡山　×遠山小太郎愛知　手塚亨二郎東京
德永鹿太郎福岡　橘　久三郎香川　井口和十郎香川　福田勳次郎兵庫
中河輿吉郎香川　×奧田作藏兵庫　×野村猛熊山口　佐々木隆吉岡山
三宅方朔福岡　×森　要岡山　×山下隆次德島

明治廿九年十一月卒業生　四十三人

藤原　薰島根　松井幾郎廣島　×菊池正光福岡　錦織幾三郎島根
×梅本熊太郎福岡　藤原勝吾岡山　馬島良吉滋賀　上野賢藏兵庫
三野原愛四郎福岡　松崎宗信愛媛　日比野　勉德島　上田長藏京都
西井廉作岡山　松尾廣運島根　×野村男三高知　田中常一兵庫
調　道太郎福岡　×有持哲造德島　原　藏太佐賀　岩井正浩高知
二井榮太郎兵庫　森　金重郎兵庫　金子宇十郎長崎　×秀平嶺太岡山
白築榮三郎島根　黑住靜太岡山　明星育藏愛媛　野口元七高知
柴山文太岡山　下村幸太兵庫　加藤誠治岡山　後藤許太郎廣島
×安原忠人岡山　天野友藏山口　岡崎類三廣島　永井秀太岡山
×遠藤隆宣京都　三河內諄一山口　森谷柳太郎岡山　美田玄司兵庫
×梅谷秀和兵庫　×中村四郎廣島　長濱友雄山口

明治三十年十一月卒業生　六十二人

×高畠庫文司德島　奥山周達奈良
伴　謙吉岐阜　井上圓造福岡
楯崎敬之福岡　×永山長三岡山
廣橋源藏兵庫　×角田秀雄兵庫
秋光二六廣島　佐藤靜夫岡山
中野忠一郎京都　×佐藤桃朔廣島
大江匡雄京都　×赤松榮太郎岡山
楠原正香大分　中野俊造福岡
松岡松治大分　田村　環香川
×横矢重吉高知　朝岡龍太郎大阪
名和田豐作山口　光畑幸雄岡山
谷口百太郎奈良　田中恒楠和歌山
石原廣四郎岡山　梅原芳雄京都
兒玉玄吉廣島　×品川正三山口
須藤五百三岡山　岸岡修吉岡山
銀羽玖治郎岡山　×太田　完島根

明治卅一年十一月卒業生　六十四人

森　十司兵庫　谷口捨次郎奈良
河野稻太郎岡山　松本百之助香川
淺野賢之助島根　×岡崎淑夫福岡
松山唉二岡山　龜井顯次郎島根
×桑原利馬大分　淺羽春之岡山
×繼邊壯平岡山　中山傳九郎宮崎
加來惟吉福岡　×山下德衛廣島
生野秀二岡山　岸一太岡山
山口良一兵庫　×河村　鼎山口
鳥山淳治岡山　橋本猛夫德島
宮原修藏山口　高山龍之助和歌山
四倉富城宮崎　×森　光太岡山
大賀正造福井　坪田旭一岡山
秋岡虎雄大分　小野彦藏奈良
大谷熊之進山口　內田金二郎岡山
×前田大吾廣島　長澤康人京都
銀林重雄新潟　藤山一雄岡山

大木與四郎長崎　堀野美治山口
兒玉吾一廣島　安井雅一愛媛
×吉村眞貴熊本　×小林豐三鳥取
細田富潤鳥取　近藤寬次郎岡山
朝長賤夫長崎　勝野英雄德島
×大野克巳鳥取　渡邊達福岡
×內山敏夫兵庫　園田鶴太郎廣島
宮原正康佐賀　三戶常三郎愛媛
×三ッ巻貞助山口　×井上久一大分
×吉田武雄鳥取　村田暢四郎大阪
棚橋隆德島　×原巍岡山
平田吾一廣島　太田貞吉大阪
天羽恒太郎德島　×二宮要福岡
高木勝見奈良　久保辰次山口
前田三郎兵庫　內田綱太郎佐賀

明治卅二年十一月卒業生　五十七人

×關原欣二岡山　甲斐四郎廣島
×小倉耘平岡山　物部龜久壽高知
黑瀨藤一郎廣島　×向井新長野
×德永升太岡山　齋藤精一郎秋田
佐伯矩愛媛　馬場利三郎滋賀
谷高三郎岡山　布留幾作長野
宮川久米次郎福岡　×渡邊龍造岡山
×村田龜太郎岡山　桑田敏行廣島
生田樂太郎岡山　橫山久太郎岡山
小鳥居才吾長崎　大平彥市廣島
×北原竹男福岡　服部清一廣島
×井上久一大分　小山小文治和歌山
村田暢四郎大阪　西鶴之助鳥取
松田靜雄廣島　森下忠恕高知
宮武幾太郎香川　富永壽一郎廣島
西下武治郎岡山　藤井晉一郎岡山
×佐々木長通島根　×谷山寅吉岡山
西村義男兵庫　高橋俊雄廣島
今村寶島根
×櫻木拙藏鳥取
長野楠太郎高知

伊藤英雄兵庫　×高田千賀太岡山
倉重眞一山口　淺田捨吉兵庫
杉右一山口　小田成器岡山
多々見五郎山口　吉田坦藏兵庫
伊澤元藏岡山　田部健一廣島
浦上純一德島　×川上甚太鳥取
今川安宅愛媛　森滋太郎福岡
兒島碩藏熊本　大澤喜衛愛媛
×三輪俊弼山口　吉村誠一山口
伊藤壽吉石川　景森森太郎岡山
齋藤孝弘福岡　西山壯三廣島
長谷川廉平岡山

明治卅三年十一月卒業生　六十九人

×本田重次郎（愛澤）愛媛　古川浩兵庫
山川庫藏德島　河村秀三廣島
平岡確一廣島　東條健齋德島
藤本助治岡山　×神殿美代藏宮崎
片岡光次郎島根　×筒井元吉德島
×太田宣男岡山　木村太郎岡山

小畑義敎鳥取　砂堀雅人廣島
伊藤五郎福岡　石戸巍岡山
×岸田九平山口　梶原興七郎熊本
×鈴木重樹愛知　太田廸郎三重
內島昌雄德島　高尾朔二島根
淺山幡太郎山口　×六車謙八香川
浦上三四岡山　×梅谷修藏兵庫
×平原貞吉長野　永松晉次大分
楠瀨正俊高知　三玉彌壽二廣島
佐藤春一岡山　×大屋熊之助福岡
門田正德岡山　日隈新大分

中丸市兵衛廣島　淺沼登眞太岡山
小谷德雄島取　福場智司廣島
×中林義男島根　山根健二郎島根
澄谷奏廣島　開發展也兵庫
牟井鐵道愛媛　畠中全助德島
野崎一義高知　森富太郎岡山

尾上德太郎兵庫　松村坦治兵庫
鶴崎政記熊本　小田切秀述福島
成田丈一德島　×西本安麿廣島
岡保二島根　永安寬島根
神田震吉京都　合田龜太郎愛媛
杉山貴一山口　矢野政五郎德島
後藤倫四郎廣島　柳原元重高知
加藤哲造廣島　吉田瑞太兵庫
×深澤精三兵庫　峯當一長崎
森熾岐阜　×河原岩太岡山
米田房太郎鳥取　（醫）溝口喜六佐賀
治部松四郎岡山

吉野一知愛媛　×時澤幾造山口
今井文次郎兵庫　池上馨一岡山
山本陸治兵庫　中川助太郎山口
隈部篤長野　朝倉義路高知
×勝原善之助兵庫　峯本愛藏德島
×牛尾信夫大阪　長濱丹次山口
淺原俊次郎福岡　出原義重高知
中村正路岡山　脇本正夫岡山
松本和雄廣島　中山靖治岡山
伊藤一郎大分　深山巖兵庫
妹尾雄一郎岡山　藤井亮介兵庫

元岡山醫學專門學校
明治卅四年十一月卒業生　七十八人

吉馴秀雄香川　黑田治太郎岡山
高月三郎長崎　×仁木五郎彥長野
田北義雄大分　橫山光永兵庫
由井雄兵庫　×尾形十太郎廣島
大石三雄三重　×牧野佐三郎島根

浦城大助三重　×三池治福岡
山之內忠茂愛媛　×佐久間章一郎岡山
三宅川治三郎愛媛　山田通兵庫
片寄連宮崎　本村成章長崎
市原辰泰高知　辻田百太郎福岡

×渡邊賴男岡山　石川勝春愛媛
佐藤壽岡山　×古谷寅喜代愛媛
×荒木嘉憲島根　×山口大三郎兵庫
土屋直巳大分　河本基一廣島
佐々木楢治郎奈良　×秋山榮廣島
森川宗治香川　津田春大阪
難藤靜夫岡山　名艸隆三郎廣島
小國積治兵庫　×竹內恂造廣島
×松田深造山口　×小橋政香岡山
×平野藤太郎兵庫　×石尾定太岡山
新庄勝清山口　濱野哲郎奈良
小池恭島根　瀧守永香川
×松井壽郎佐賀　×眞鍋平八德島

明治卅五年十一月卒業生　八十一人

牟田熊彥佐賀　高木常雄岐阜
內藤直太郎德島　香川瀧造廣島
出射一郎岡山　井崎精一鳥取
古川佐一郎愛知　×光田幹雄岡山
瀧口一三廣島　村上茂大阪

八島弘治宮城　×大倉都太岡山
谷勘三郎福岡　×尾上順太郎熊本
小林團市島根　北島種彥佐賀
山本泰吉岡山　高原英夫岡山
富永直俊長崎　千賀愛人愛媛
河田節夫岡山　兒玉周一島根
橋本一郎岡山　久保信之佐賀
林久雄德島　戶田磊之甫岡山
戶澤三策山形　細川平左衛門廣島
足立丙子郎奈良　山本泉岡山
×町野鼎造山口　金川弘造兵庫
×今田正人廣島　×山科貞一山口

明治卅五年十一月卒業生　八十一人

×大江直吉兵庫　大河內孝一愛知
千田義雄岡山　×石井久太郎東京
橫澤泰一郎長野　逢坂左馬之助德島
保井安治郎兵庫　延岡靜岡山
黑須謙埼玉　石原貫一岡山

杉浦實雄愛知　山田覺愛知
須原廣三重　川田直清香川
三木德次香川　佐治豐岡山
三宅弼岡山　濱島秀梧福岡
×眞田謹一郎愛媛　×福井慶太岡山
×北山眞造京都　×吉岡敬三岡山
河內山信吉山口　草野春平東京
×土谷隆光岡山　×片山愛雄岡山
嵩鶴彥和歌山　池田喜一新潟
木村尙德島根　×姬井良夫岡山
池田武島根　水野澤齋大阪
×堤聚愛媛　五井徹三重
×藤澤義夫香川　角田清次岡山
×內田耕一郎福井　有村守平鹿兒島
田中倉太長崎　近藤綾次郎德島
三好智整岡山

三谷盛國高知　藤原時彥佐賀
×藤村一郎山口　瀨戶亙高知
×藤津善右衛門山口　宮崎吉澄愛媛
相田小八長崎　增原長治島根
×早川亮一愛知　安達精三滋賀
藤堂一郎廣島　津島一伸香川
×北村尙虎熊本　佐藤壽雄廣島
宮崎昌太郎岡山　丹羽浩岡山
×田邊義一大分　本田眩一大分
鈴木一吉石川　桑原良馬高知
安藤謙三大分　永松休光福岡
長木義男德島　鈴木正司新潟
×池田住太郎島根　久保井定治奈良
和田精才兵庫　南部健二郎京都
三好三郎佐賀　矢野貞愛媛

明治卅六年十一月卒業生　七十二人

入倉榮暐香川　×小池嚴雄島根　馬淵秀逸大阪　岡村善三郎山口
山添貞三大阪　折茂恒治群馬　上山喜明鳥取　三井圭造山梨

平井龜太郎 廣島　山本庄之助 兵庫
難波秀太郎 兵庫　松田丈平 岡山
黒瀬富太郎 廣島　黒瀬眞一郎 福岡
石田敏太 岡山　朝長昌雄 長崎
國分禮吉 福岡　梶完次 香川
後藤弘介 香川　三宅慶助 岡山
北室直一 德島　×齋木阿久利 廣島
劍持民一郎 岡山　岩野俊治 千葉
秦一學 福井　藤井政助 三重
平位律藏 兵庫　×土居通親 廣島
重富貫二 山口　×鈴木泰 岡山
×安倍鼎三 廣島　藤井與三愛媛
植善次郎 和歌山　阪口義譜 和歌山
×三宅百樹 京都　鶴見助愛媛
德森大成 沖繩　立花網祥 佐賀
横山巖 岡山　村上嶺二 廣島

明治卅七年十一月卒業生　九十一人

內田操奈良　×村主丑太郎 岡山
×佐野又新 島根　×佐々木寬治 大阪
×山崎宗三 香川　小野寺俊造 三重
淵田俊治 大阪　森山龍雄 島根
井上藤香 福岡　×江並直幹 神奈川
中根光直 三重　井上武 兵庫
×廣瀬併二 新潟　今山茂大 分
漆原亮平 香川　×平井郁太郎 高知
×村上健 島根　內海定男 兵庫
×窪田幾介 山口　藤掛三郎 京都
永森彥八 香川　中西龍雄 大分
×尾形德夫 德島　中村平三郎 福岡
掛谷令三 廣島　岩崎剛千葉
若山茂雄 滋賀　遠藤進巖手
長野守當 高知　兎本宇三郎 京都
×喜多源太郎 德島　中原健太郎 香川
箭田繁福 香川　吉富常治 宮崎
秋重肇 福岡

遠藤肇 德島　別所愛三郎 鳥取
×長坂誠 廣島　清水眞三郎 島根
增田正爾 香川　岡田順造 廣島　×
×奥野賢次郎 岡山　河合決 香川
村上敬二 福岡　大野守三 岐阜
×大前信三 大阪　眞野狹治 岡山
白形昌業 愛媛　×赤井寬一 和歌山　×
×岡崎喜太郎 岡山　立川直大 分
森恒三 廣島　土佐兼次郎 島根
石原庫三 岐阜　安水說治 兵庫
武部元雄 京都　川西清規 岡山
松原乙作 山口　荒木要五郎 岡山　×
松井篤二 廣島　西崎忠平 岡山
近藤盛德 島　松岡敬止 香川
片山雄 岡山　黒田秀雄 山口
松田敏人 廣島　關餘作 北海道　×
近藤幸太郎 德島　×丸岡定吉 京都
×有馬純也 宮崎　堀江茂 廣島
河原猛夫 岡山　露野武夫 岡山
松成晉一 大分　村岡傳 山口

飯田良雄 大分　長船郁太郎 岡山
西山九右衛門 岡山　×代田英夫 長野
×吉田直毅 兵庫　岡山愛三 三重
大森爲二 岡山　三木方直 香川
國澤義朝 高知　友保正雄 岡山
鈴江豐德 島　荒川寬德 島
×林田龍太郎 三重　水谷禎二 岡山
三瀨茂彥 愛媛　山口政一 島取
野瀨伊勢吉 福岡　×那須仙三郎 岡山
八尋卯次郎 福岡　小池環 島根
吉田秀之助 兵庫　阿部千年 福岡
×北村康夫 京都　×吉原準一 廣島
朝倉長三 兵庫　內田稔介 山口
松野一也 秋田　田崎清次 宮崎
岡田長一 島根　小柳實 福岡
×辻田由馬 愛媛　松島堅吾 德島
越智佐夫 廣島　白神盛雄 岡山
田中榮一郎 德島　高原十三治 兵庫
有田暢介 山口　山田尙忠 岡山
山本貴亮 山口　×佐々木民雄 岡山

山本新次郎 愛知
渡邊悅次郎 三重
陶山齊 島根

×二宮猪四郎　愛　媛　×山内又八　香　川　山中豐二　兵　庫

明治卅八年八月卒業生　六十七人

上田敬治　奈　良　野田三郎　廣　島　林　有隣　廣　島
井爪昌一　和歌山　田丸要雄　廣　島　小橋新次　奈　良
角田權　岡　山　奥宮松枝　高　知　小倉一郎　岡　山
菅　一愛　媛　高田武三　岡　山　森　源之助　兵　庫
藤田境太　岡　山　佐藤次郎　廣　島　×竹本源一　廣　島
平位節藏　兵　庫　江木健三　廣　島　高見新太郎　兵　庫
×花岡文四郎　三　重　林　正樹　山　口　内山健吉　兵　庫
菊原政通　愛　媛　湯川新造　和歌山　田澤省三　神奈川
魚角量吉　高　知　吉田幸治　鳥　取　溝端昌雄　大　阪
河村五十鈴　滋　賀　若月館一　山　口　×小松一樹　高　知
生島賈　兵　庫　×兒島辰三郎　岡　山　有馬文作　山　口
安部一　大　分　安田收藏　京　都　藤本茂治　大　阪
齋藤勝郎　島　根　向井寬　香　川　永井藏　愛　媛
高田克明　兵　庫　大喜多四郎　香　川　三浦小次郎　鳥　取
×小出和次郎　岡　山　×山田淺次郎　廣　島　安元進　福　岡
萩尾勉　岡　山　山崎利宗　廣　島　向畑健次郎　和歌山
×中本房二　岡　山　阿南一夫　大　分　畑精吾　三　重

明治卅九年十月卒業生　九十人

×石部賢三　島　根　岡村儀人　山　口　岡村清次　高　知
伊東卓哉　大　分　牛尾耕平　廣　島　渡邊琢次　岡　山
×大藤昇　岡　山　加來彌三郎　大　分　三好正一　山　口
×横山繁　岡　山　福永豐綱　廣　島　×林榮太郎　岡　山
大上富次郎　愛　媛　×高島靜彥　愛　知　×竹腰馨　大　阪
坪井喜寬　岡　山　木村茂樹　兵　庫　小牧德身　高　知
村上憲佑　廣　島　万袋大祐　岡　山　榊原省吾　香　川
大田原英一　岡　山　渡邊一太　香　川　篠原雅吉　香　川
小野寺芳三郎　兵　庫　×小金井捴夫　兵　庫　池田精一　愛　媛
戸田安衛　岡　山　横井達麿　愛　知　×黒住喜治　岡　山
和田英次　岡　山　×青木季夫　福　岡　井内芳三　德　島
三木延一　德　島　藤田覺三三　重　堤元齡三　重　×岡崎澄太郎　島　根
清水五郎　德　島　武岡達次　德　島　茶川一山　口　松本眞治　岡　山
大橋直俊　兵　庫　藤浪剛一　愛　知　×吉井豐太　香　川　中原清　島　根
三木延一　德　島　武岡達次　德　島　茶川一山　口　松本眞治　岡　山
清水五郎　德　島　藤浪剛一　愛　知　×吉井豐太　香　川　×渡邊八重馬　高　知
大橋直俊　兵　庫　藤浪剛一　愛　知　×吉井豐太　香　川　×渡邊八重馬　高　知
山下三郎　岡　山　三浦正一　山　口　兒玉利秀　鹿兒島　德永達三三　重
伊賀龜三郎　香　川　山上勘三郎　廣　島　上條善太郎　長　野　大野賢三　新　潟
大島重雄　大　分　柳澤貞郎　兵　庫　岡本哲郎　山　口　×清水朝雄　山　梨
廣藤文造　廣　島　三村英正三　重　柏村博　山　口　兵頭要助　愛　媛

×久保田三郎兵庫　山中昌隆兵庫　德永實福岡　×多記章輔山口
村上武四郎廣島　西田信司兵庫　白井正象香川　小林久治大阪
中原謙次郎兵庫　×小原未輝岡山　來栖昌一山口　佐久間佳誠奈良
太田英一郎三重　×野上正次岡山　延原量一岡山　岩本哲郎山口
淵嘉吉大分　×高柳治助岡山

明治四十年十月卒業生　百二十三人

瀧口俊榮福岡　×木戸純鳥取　足立貫京都　蛭子暉廣愛媛
安藤幹太岡山　吉田廉熊本　荻本快吉大分　山名正士高知
賀川哲夫廣島　山田富三郎岡山　×羽山周五郎和歌山　本城立勢岡山
×池上公平廣島　伊澤熊男岡山　本名猛雄岡山　矢澤弘水長野
高原來二岡山　渡邊爲世愛媛　上田嵬岡山　杉原盡愛知
宇治木清之助廣島　田村庸一和歌山　笹原竹三秋田　×楢崎達山口
久保五百吉香川　有松直輝福岡　三浦賢柳京都　近藤鐵太岡山
長沼象助山口　坂本清海高知　東照平岡山　澤村久壽猪高知
藤浪和美愛知　內藤七郎岡山　北川田朗二岡山　立神正夫廣島
福島壽人廣島　河村泰寬廣島　福島文藏熊本　齋藤平七廣島
三村恭助岡山　吉村榮太郎山口　矢野環廣島　柘植秀雄熊本
平川龍造廣島　辻武四郎大阪　長壽人廣島　原染次郎岡山
福山秀雄兵庫　北亦利市和歌山　大森熊次岡山　眞野良隆愛知

武木田卓三兵庫　池田萬香川　高橋滿一郎島根　吉川家善廣島
蘆原松三郎香川　高橋知尙三重　三宅幹夫岡山　西村一太郎山口
高橋守三郎愛媛　×高井强兵庫　原田種弘福岡　福岡作群馬福井
山口杢郎大分　宗友擇善岡山　藤條聰善愛知　榎本六三郎和歌山
×大村正員滋賀　山口龍契岡山　畝木卓之岡山　藤戸正孝兵庫
三浦萬之助山口　×山崎英男岡山　佐々木良策三重　富士田如一廣島
松澤喬岡山　×淺原正稔長崎　中村吉太山口　安達周一郎愛媛
木原舜市廣島　百谷三郎廣島　長谷川恒治香川　田村宇一廣島
伊藤琢郎鳥取　堀田彌三松大阪　沖谷末吉大阪　日置高大阪
×稻垣馨京都　桑田潤吉廣島　中村金藏鹿兒島　松葉周一廣島
×新居顯太郎愛媛　松浦綾太郎愛媛　鳥丸俊彥鹿兒島　圓尾龜代治兵庫
大塚和勝愛媛　橫山銑太郎高知　沼本綾造岡山　產賀敏雄岡山
小川庸夫岡山　吉武權一山口　小坂保岡山　渡邊善作栃木
×尾坂勇夫岡山　時岡東作新潟　進藤斧吉岡山　桑原元吉岡山
山崎蓊廣島　高月賢一岡山　福井勇太山口　岸耕介山口
×黑住寬二岡山　戶田亨廣島　柚木武夫岡山　大塚文雄滋賀
長村規矩大分　井上靜丸山口　×赤塚二郎三重　松井俊一廣島
小川勇平岡山　藤川敬二兵庫　松井林太郎廣島

明治四十一年十一月卒業生　百八人

橫川定岡山　又森平八郎德島　菅實岡山　村田秀太郎岡山

宇山榮一德島　荻野孚美岡山
井上覺永奈良　武中勳策廣島
和田法雷石川　×仲　一司大分
砂田善平岡山　熊本密雄德島
水原　清香川　井上壽男岡山
片山　薰岡山　×渡邊守衛福岡
×栗山武三和歌山　佐藤臣少岡山
三好正則岡山　中島正直岡山
守山貞一熊本　松原愛次郎愛媛
金山都二郎德島　石川安左衛門島根
櫻井廉一山口　田中庄太郎京都
森本末吉廣島　×渡邊脩廣島
×沖原太郎山口　×國定正男岡山
澤田保吉三重　桝井長策大阪
橫田政次香川　澤井秀夫廣島
村田松五郎山口　柳　義雄山口
西岡早太郎兵庫　×小山豐東京
田宮貞純熊本　坂郡藏岐阜
平田金平岡山　×吉本源造島根
岩男其二郎大分　×圖尾敏雄兵庫

太田九三男愛知　久保富太香川
額田正岡山　林　昌岡山
尾崎文七郎岡山　高龜良樹廣島
佐藤孝信岡山　×太田逸人岡山
橫田龜熊島根　×加藤善親愛媛
福井勝福岡　酒井惣一岡山
落合治三重　×山口文市長崎
小野正春高知　×野平靖男廣島
×松村彌助福井　西崎辰三兵庫
野田諦俊愛知　南　昌朔三重
×安東保大分　那須四郎岡山
二宮岸之助愛媛　平野登與一廣島
×西本寅松山口　須澤清次岡山
大橋稠岡山　高橋彌宗一兵庫
福武敏重岡山　今本眞一郎奈良
福庭透島根　藤河喜人廣島
岡本直藏岡山　南川義一大阪
山口政男長野　長野健次郎岡山
×森本保三郎和歌山　岡田淳一岡山
渡邊光太岡山　鈴木幸熊東京

×伊藤忠五郎三重　×高見賴治岡山
藤　義雄大分　根鈴勝太郎島取
十時龍雄福岡　加地盛三愛媛
渡邊儡史愛媛　岩田岩次郎岡山
佐々木利平廣島　河本申二郎岡山
鷲野林次郎岐阜　秦　知二東京

明治四十二年十一月卒業生　九十五人

三宮信彥高知　中野太郎長野
大西永次郎岡山　齋藤清德島
山下勇逸廣島　川崎力雄茨城
藤岡耐三岡山　田伏德藏和歌山
谷　義夫德島　池田嘉一郎和歌山
前原嘉六廣島　鶴見鎌三郎岡山
大谷宇三郎廣島　葛西　明京都
高橋靜間廣島　松永　威香川
土居撲太郎愛媛　信永才一廣島
黑田純三和歌山　南場秀一島取
宮地繁樹高知　賴富英吉香川
得津慶一和歌山　平井重次郎岡山

大野勘藏愛媛　×山內宗生三重
本鄉　仞岡山　三宅伯一郎岡山
×高階照夫岡山　井關誠一和歌山
高木武次愛媛　井水柳軒大分
×西川千代松東京　米川良遞三重
小川邦愛岡山　×八木治郎大阪

須藤　潔岡山　對馬正五郎青森
佐藤吉玖岡山　井上敏夫廣島
河本信一廣島　高橋莊太郎廣島
藤井眞澄岡山　若田五百里廣島
重松　讜愛媛　松村政平和歌山
町井貞敏三重　溝上茂一和歌山
杉山　榮岡山　林　昇岡山
三宅助一香川　藤本友之進山口
×狩谷　猛岡山　神尾正詳廣島
松本胤逸香川　坂部一作岡山
森　德太郎德島　禰屋　讜岡山
武井貞一岡山　安井俊二郎愛媛

×都能 唯市 愛媛
松田 茂樹 鳥取
眞鍋 泰藏 山口
三宅 三吉 佐賀
×栗田 櫻桃丸 愛媛
遠山 久大 福岡
山中 惣次郎 和歌山
林 信一三 重
×佐藤 孫重 岡山
鈴木 茂山 梨
下瀨 政三 山口
門多 秀之 愛媛
寒川 秀雄 和歌山
×堀口 久樹 德島
沖津 亙 德島
川西 道太郎 岡山
坂口 壽七郎 福岡
近藤 博 兵庫
岡田 胤茂 愛媛
山口 梁 岡山
横内 喜馬太 岡山
金谷 忠景 岡山
湯原 達三 岡山
永井 美夫 香川

明治四十三年十一月卒業生 百十一人 內修了生二人

×河田 壽太郎 岡山
松本 武一郎 香川
中原 園惠 岡山
×高橋 藤隆 高知
安田 覺造 岡山
×福井 清治 高知
福本 清 兵庫
坂井 直一 石川
松岡 金治 岡山
片木 龍藏 大阪
佐藤 信雄 島根
人見 鹿太郎 岡山
高橋 四郎 岡山
×山下 重義 德島
稅所 貞彥 鹿兒島
香川 小四郎 香川
永原 哲一 岡山
村瀨 達三 岡山
內田 登一郎 愛媛
三原 信章 廣島
鈴木 鑛爾 岡山
三村 次郎 岡山
仲田 達夫 岡山
上田 保令 大阪
×田端 重吉 廣島
林 充明三 重
×山田 稔 岡山
森 忠男 廣島
大口 壽香 岡山
牧原 勉三 廣島
鳥越 幹夫 岡山
花房 秀三 香川
鳥田 奈良吉 廣島
×山本 榮助 岡山
×石田 哲 廣島

芳江 高知
松枝 新 岡山
好本 和多里 岡山
木村 亨 島根
正田 浦吉 廣島
山脇 逸三 廣島
水田 泰了 高知
坂上 直道 和歌山
齋藤 忠治 山口
高祖 敏雅 岡山
矢野 龍雄 和歌山

赤松 善淨 兵庫
小林 平吉 岡山
×岩佐 高次 岡山
藤村 幸輝 京都
紀 一字 大分
三吉 基雄 山口
河野 壽 廣島
種谷 利夫 兵庫
井上 登眞太 岡山
坂本 正三 奈良
佐々木 安市 鳥取
×深澤 重直 高知
加藤 謙 鳥取
池田 正行 廣島
平井 義男 岡山
藤井 義熹 廣島
米川 覺一三 重
×山田 敏彥 廣島
豐福 盛平 岡山
山地 篤藏 香川
藤井 哲造 廣島
野上 尙志 岡山
武內 省也 岡山
松田 良樹 廣島
大淵 英一 島根
岩堂 士郎 岡山
打橋 俊雄 和歌山
人見楠右衛門 岡山
宮西 寅之進 和歌山
井上 八重二 岡山
財滿 平也 山口
有吉 憲治 福岡
小野 誠業 島根
杉田 俊三 大阪
日下部 弘山 形
藤井 貫一 大阪
佐々 千笠 島根
中川 敬雄 廣島
鳥羽 純吉 兵庫
神澤 修 兵庫
古田 金造 和歌山
平賀 喜多男 廣島
村上 壽次 岡山
大津寄 義三 岡山
東原 尙一 香川
長田 孝一 岡山
杉山 龜之助 岐阜
今井 兼輔 滋賀
島岡 厚吉 奈良
×平野 主計 和歌山
岩崎 衛二 兵庫
淺野 輿 岡山
西原 友一 愛媛
寺本 亦吉 島根
近藤 正信 岡山
川原 信興 德島
瀨尾 淳一 廣島
森 茂三 重
織田 宗次 岡山
增野 純亮 山口
川野 昇 大分
松森 正純 兵庫
阿部 營之 大分
栗田 朝春 愛媛
伊藤 一登 廣島
天田 照男 廣島
谷 精二 岡山
小堀 利一郎 岡山
小川 作藏 大阪
安永 謙逸 福岡
城戶 通德 愛媛
長田 祖村 山梨
山中 圓丸 山口
北野 秀正 福井
大谷 治人 山口
由井 源七郎 愛媛
藤井 彌二郎 大阪
成相 一理 島根
內田 猪之助 岡山
×川本 喜代一 廣島

坪井　嶸　岡山　　青江　巖　岡山
吉田好助　山口

修了生　二人

池成沈朝鮮　姜元永朝鮮

明治四十四年十一月卒業生　九十人

*内修了生一人

平野林福岡　坂部浩岡山
豐田修三郎　愛媛　×渡邊順次　岡山
田中長之助　島根　×菅舜太　愛媛
石井義章　岡山　谷口耐　岡山
金親坦大阪　小松原猷之助　岡山
安東寛　岡山　柴英雄　岡山
佐久間成三　兵庫　堤清太郎　三重
×岡本龜太郎　愛媛　高橋統閣　山梨
小林建太郎　岡山　井口法太郎　岡山
山田實二　岡山　和泉正之　香川
矢野義德　兵庫　高杉早苗　廣島
×村井素直　廣島　武藤義忠　岡山
櫻井鄕三　山口　德廣龜治　高知
濱崎藤吉郎　岡山　神山房助　和歌山
狩野行平　島根　村田英一　兵庫
仙波磯次郎　愛媛　濱良三　和歌山
村田良一　兵庫　佐々木綱太郎　岡山
小坂次郎　廣島　柏原完造　廣島
中田正景　兵庫　岡村舜三　岡山
柏原一郎　高知　富田貞松　福岡
×漆原登　香川　牧田正門　岡山
×內田眞壽太　岡山　岩中三郎　山口
伊丹武男　岡山　稻富一郎　鳥取
金森健治　島根　菊川鄕二　愛媛
二宮正直　愛媛　細川隆一三　重
×結緣新六郎　岡山　河野一男　廣島
大原四郎　廣島　波多腰歸太郎　長野
齋藤尙雄　三重　上田義信　岡山

×阿蘇直江　廣島　高越澤太郎　岡山
大瀧　登　岡山　井坂重三　三重
藤野直亮　山口　中內一郎　德島
馬島昇一　德島　×原田堯一　廣島
岩佐誠一　山口　近光增夫　岡山
村田武夫　愛知　稻田達三　廣島
石井誠欠郎　岡山　今田立彥　岡山
星島卓爾　岡山　×望月節治郎　廣島
佐藤敬造　岡山　福原泰造　廣島

修了生　一人

韓興敎　朝鮮

大正元年十一月卒業生　八十七人

永瀨貫一郎　島根　椋代角一　岡山
今橋鉄三　山口　×山中喜一　兵庫
田中幸祐　岡山　丸川千基　岡山
難波謙治　岡山　川田稔　高知
×岸本三郎　岡山　×小島乾二　廣島
高城喬　熊本　永島良之輔　京都
三宅正三　岡山　坂野義誠　岡山
仁科稔夫　岡山　清住要　廣島
兒玉政男　廣島　武波晉一　山口
×原田堯一　廣島　土居盛登　山口
岡　廣島　根　太田厲司　兵庫
山田昇　兵庫　×堀江又四郎　和歌山
津田薰太　岡山　×廣瀨信孝　山口
杉山九一　山口　池口順一郎　大阪
早川次郎　愛知　田村節夫　廣島
白玖壽雄　香川　赤木金太郎　岡山
高橋義藏　三重　北光三　大阪
山中茂　愛媛　泉松之助　大分
×島內義貞　高知　久々原政一　廣島
福井宗平　山口　大屋藤一郎　島根
二神種郎　東京　水之江圓珠　大分
蓮井直衛　香川　影山重士　岡山

宇野實岡山　坂上愛之助鹿兒島
佃卓三郎愛媛　河野通武山口
十市正一高知　松尾正人廣島
小林英輔岡山　藤澤五六岡山
×北村文吾大分　森川光治兵庫
岡保銳三重　×松澤芳五郎山口
小川一三岡山　山部蛾山口
梅田好只廣島　彌政竹雄山口
山田武雄福岡　山本泉平岡山
竹內壽滿治長野　中村增一廣島
佐々木成器三重　中原衛貞鳥取
和田源六德島　山田則三山口
山崎龜一三重　大澤俊郎島根
前田不窳器愛媛　玉置昇二奈良
合田壓成愛媛　中村寬岡山

大正二年十月卒業生

藏本貢廣島　增田惣治和歌山
太田春一愛媛　岸本宗治郎岡山
清岡直高知　菅本一之大阪

柚木唯二岡山　服部利恭奈良
田村知重愛媛　甲斐義長大分
大內健太郎宮崎　糸井米治京都
×福鎌胖東京　神崎猪之吉島根
齋藤壽福山口　鳴田忠男廣島
北川直猪高知　松田忠吉岡山
穀內輝夫兵庫　河崎直岡山
宇野圭三兵庫　×松岡靜雄大分
中島定敎大阪　關政則高知
×長野敏一兵庫　福島久吉德島
×林猛夫大分　蓬萊武次兵庫
土居六郎岡山　濱田友次郎廣島
大山忠三郎香川　秋月春莊愛媛
森修平岡山　山崎祐保高知
西田琢磨兵庫

九十人
內修了生一人

重松惠祐愛媛　佐藤武雄島根
天田勘七廣島　尾木竹吉高知
醫博藤原政雄岡山　×大浦精長崎

二村久雄福岡　工藤磨大分
西田熈治山口　醫博關場代五郎岡山
山崎磐兵庫　首藤武雄大分
高島義治鳥取　寺坂幸太郎愛媛
竹內岩雄大分　阿須賀四郎廣島
廣田吉太郎高知　鹿毛茂樹佐賀
福田德治郎兵庫　宗盛宗人廣島
服部堯估愛媛　田井稔香川
笠井隆吉廣島　西垣儀太郎京都
岩井龜治大分　多田繁廣島
有馬雅輔山口　大原順一廣島
佐藤明岡山　高山貞兵庫
竹本巖廣島　小坂金吾岡山
×佐藤孫市三重　新宗一大阪
原鄰臣岡山　醫博伊藤幸憲大阪
高井禎造山口　×久保岩造山口
內藤業太郎岡山　妹尾良藏鳥取
山口茂岡山　柴田剛太岡山
敕使河原文兵庫　橋川市太郎三重
丸山敬延岡山

佐々木三郎大分　藤森眞治兵庫
桑原繭造廣島　青野正雄東京
×岡本亮一愛知　井上文夫廣島
×中村邦彥三重　橫山寅二廣島
×高田安次德島　齋藤代次郎岡山
三浦高一山口　南川欣司兵庫
畠山恒三廣島　武田俊一郎宮崎
濱田堯民德島　清水憲介山口
×狩谷浩廣島　持田武廣島
×藤澤澤記兵庫　黑住久岡山
×津堀保熊本　×守屋愛吾岡山
橋口繁鹿兒島　小東四郎廣島
森脇源吉和歌山　藤田茂香川
西井鹿二岡山　佐久間政次郎愛知
×中島楠男岡山　新山潔京都
平岡篤廣島　山根文士廣島
中川俊一兵庫　×川上隆治島根
森肅郎廣島　八井田茂實高知
長谷川郁兵庫　近石雄平香川

修了生　一人

張積仁支那

大正三年十一月卒業生　九十八人

田邊郁郎岡山　高橋昌造島根
黒目丹一郎島根　橋本政一兵庫
濱田榮一京都　井原愛雄愛媛
牛尾八治兵庫　×中原武一岡山
中野林一廣島　武內利張高知
濱田彦九郎高知　栗栖幸穗廣島
×三谷弘廣島　菅實愛媛
上野亮藏大分　山崎雅爲高知
土井浦二廣島　正岡一董廣島
妹尾義一岡山　田中繁藏三重
池田重保宮崎　山口一雄東京
田中貞夫岡山　大森保岡山
後藤富春愛媛　大田顯香川
近藤哲四郎岡山　伊達珍馨鹿兒島
草野實山口　古谷滋夫福岡
繁田齊兵庫　富岡敏哉佐賀

古瀨久敬島根　美木俊雄岡山
山崎輝愛知　×倉藤初次岡山
田部浩廣島　藏田利作山口
林昇岡山　河野明一廣島
廣川友一愛媛　佐野實兵庫
阿部常司岡山　田邊貞一山口
大桐良藏岡山　高橋昌夫廣島
岩橋宜雄和歌山　藤田秀三郎京都
×大竹恭二兵庫　渡部元鳥取
木畑辰夫岡山　己斐言廣島
黒川節司廣島　永野武二熊本
南部英雄山口　吉田一夫兵庫
山本敏晴京都　佐藤敏夫岡山
矢谷義夫岡山　山科辰雄奈良
×天川保兵庫　×肥野藤貞夫廣島
山下賢範岡山　長野寬治兵庫

安積一郎兵庫　高木信德島
永野實雄廣島　谷內與一郎大阪
木本欽吾奈良　白石保愛媛
平井義雄岡山　金谷卓爾大分
今川梧郎岐阜　內堀昌光兵庫
黒川幸二郎大分　井關實二京都
越智昇一廣島　相原義一福岡
西川勳岡山　小澤清躬靜岡
井上義夫山口　渡邊亮岡山

大正四年九月卒業生　九十八人

奧島貫一郎愛媛　砂田庫太郎愛媛
望月久雄廣島　×福家玄太郎香川
田村益光高知　×松井武三愛知
浮田勝造岡山　武部明夫三重
八束武利愛媛　中井茂樹廣島
木村直慶奈良　宮本良男和歌山
白坂正吉山口　安田仙次郎兵庫
×金綱壽雄廣島　×渡邊充吉廣島
×石井秋藏廣島　正井發二兵庫

矢原四郎香川　岡本英一大阪
水野周逸愛知　梶谷俊三愛媛
柏木俊二兵庫　池井彦策宮崎
中山俊雄兵庫　×坂井修廣島
池田昇廣島　篠崎憲吉愛媛
生馬茂和歌山　×森文雄岡山
岡順二和歌山　林廣天鹿兒島
山道謹爾長崎　保井彦三郎和歌山

九十八人
內修了生八人

矢吹浩岡山　中村梹樹和歌山
武田三郎愛媛　新谷靜一岡山
島田豐文大阪　小山弘岡山
菅田直樹廣島　滋野井至孝石川
中村慶藏三重　西村敏也京都
三木明治德島　須賀松三郎岡山
杉岡專吉愛媛　陸憲二岡山
宇都宮博章愛媛　瀧稻生愛媛
杉泰一岡山　大林蘭忠香川

都田　寶鳥取　松島　瀟末島根
赤木　義孝岡山　東郷　安兵庫
三好　義雪廣島　上田　驍岡山
伊藤　恒二大阪　久代　義雄山口
川上　慶三郎香川　三原　常雄熊本
小橋　納一郎奈良　白石　隆二愛媛
三宅　朋一岡山　平原　準一岡山
河島　寬岡山　北本　宗治大阪
岡部　秀男兵庫　高橋　政太郎大分
岩坪　源治和歌山　橋田　鷲鳥取
山縣　修山口　木下　正之鳥取
×三谷　善吉香川　草野　源太郎京都
×高橋　隆彦島根　×眞鍋　昇香川
田淵　清德島　荒木　豐吉愛媛

修了生　八人

金永　華朝鮮　孫柳　溪支那
巴忠　祥支那　李光　綸支那

大正五年五月卒業生　九十六人

赤堀　淳太郎岡山　中村　松男廣島
內畢業生三人
岡島　壽大分

簡井　順和山口　×利岡　禎祥高知
金光　三郎岡山　戸田　茂岡山
山藤　稔島根　風呂野　澤一廣島
森戸　登守廣島　長　直登廣島
越智　五七愛媛　渡邊　常藏廣島
野內　繁島根　田中　正慶鳥取
山邊　暉政德島　鎌田　健治愛知
石松　又生大分　西田　卷三岡山
黃田　克巳廣島　友澤　辰治郎兵庫
吉田　春壽高知　林　佐廣島
上田　宗一愛媛　柳井　勝人島根
扇田　豐愛媛　糟谷　達太郎靜岡
別府　伊三郎愛媛　岡本　東洋男岡山

鄭　錫鎔朝鮮　楊　瑞苞支那
焦　增祺支那　鄒　懷漏支那

田岡　清夫德島

倉內　嘉也岡山　大屋　晉市島根
光田　利三郎岡山　小林　孫兵衛岡山
中村　四郎高知　三宅　誠一香川
伊賀　久家岡山　神谷　英典愛知
太田　近治岡山　×三宅　卯一岡山
眞砂　幸一郎和歌山　谷村　政體兵庫
遠藤　信昌島根　三藤　香吉廣島
×荻野　正一郎和歌山　永井　萬龜雄廣島
木村　義郎鳥取　關　正次岡山
龜山　晉岡山　緒方　顯孝香川
高見　喜夫兵庫　陶守　三思郎岡山
中島　龍一島根　田村　眞一郎山口
井上　秀男岡山　加藤　鶴龜廣島
湯山　辨作靜岡　森川　倘岐阜
森下伊右衛門兵庫　紺谷　茂大阪
梶谷　倘岡山　森　誠三德島
植田　不二三廣島　×齋藤　忠明岡山
大谷　惣次郎大阪　井田　政次郎大阪
香西　眞一岡山　藤田　義信山口
原　英男岡山　小川　基靜岡

高山　榮次郎群馬　戸川　要平岡山
大谷　顯三岡山　森谷　善七岡山
×山路　順之助愛媛　勝田　穫和歌山
濱田　豐介鹿兒島　渡邊　清岡山
板野　泰治岡山　山崎　敏郎岡山
高原　武一兵庫　妹尾　唯治岡山
高橋　勝護高知　增田　眞次兵庫
園田　富士彥京都　常包　明香川
吉田　千束長崎　岩藤　政太岡山
三好　悅一廣島　福原　讓廣島
松岡　賢一廣島　山名　良造和歌山
×川下　義見香川　×秋山　豪之廣島
向谷　準一郎兵庫　岡田　俊之岡山
原田　忠男和歌山　高本　芳郎山口
出口　林一三重　笠井　經夫岡山
吉川　勝司奈良　河野　進德島
早川　清雅愛知　西尾　修五郎奈良
×井上　禎治大分　橫山　敏暢廣島
渡部　芳一愛媛　西山　凌雲高知
安田　正一郎愛媛　越賀　謙治兵庫

志村實五山梨　小川澈磨和歌山
本村保廣佐賀　×中川村雨京都
長谷雄三郎大分

畢業生　三人

金炯轍朝鮮　葉毅支那

大正六年五月卒業生

正木豐兵庫　廣畑龍造廣島
七樂虎雄福岡　長谷川靜一兵庫
吉田功愛媛　上村克巳大分
吉栖生一岡山　秦幸文島根
由井勝兵庫　岡上富貴男高知
永田佐次鹿兒島　河合一郎岡山
川北伊勢吉高知　梅崎明兵庫
×北川正一兵庫　多田幹兵庫
前川鼎岡山　安原節太郎兵庫
沖野勝治廣島　內山友吾廣島
松尾潔山口　大石仁八德島
宮本保和歌山　乾清一德島
野田要香川　二川敏明香川
×中井保景奈良　大野眞一岡山
更谷武一奈良　河村良亮三重

王魁元支那

九十八人

內畢業生一人

岩崎靜京都　伊澤好爲山口
×土橋彌太郎和歌山　渡邊善朝大分
福本武雄兵庫　岡崎卓一岡山
松岡元治郎三重　村山富治茨城
須之內權三愛媛　時枝正喜大分
神崎勳岡山　×鹿谷啓京都
阿部敏英山口　木畑元米岡山
藤原角一岡山　請川秋義香川
原田篤郎廣島　×小野是一岡山
水上浩熊本　細川正樹廣島
山本覺圓和歌山　小高與吉岡山
木田茂香川　永瀨寬一岡山
松林保太郎山口　田宮貞亮熊本

和田直吉愛媛　眞部正光愛媛
後藤義貞香川　大石松一兵庫
平松啓一岡山　津本由次郎和歌山
美馬林一德島　畠山長作廣島
伊藤愼一東京　大森操大阪
大藤利治山口　藤村柳吉山口
中川貞二大阪　深瀨隆彥岡山
寺尾德意高知　井林清治廣島
百束昌言福岡　櫻林哲二山梨
阿波桂一郎和歌山　井上明大分
市來政義鹿兒島　淺野季彥岡山
山口巽鹿兒島

畢業生　一人

李甲洙朝鮮

大正七年五月卒業生

伊東道清愛媛　山本義雄和歌山
三橋長一大阪　吉田秀雄兵庫
今井正善岡山　×龜山幸衛愛媛
桑名省郎高知　松坂彌次郎山口
松岡周藏福岡　中瀨清德島
森良珪德島　安本義雄島根
×太田喜次郎和歌山　山口近義奈良
宮竹圭一郎大阪　寺松隆太郎岡山
中山二郎神奈川　水島愼吾岡山
松浦堯兵庫　藤本忠夫兵庫
中村英夫島根　×宗像春三山口

八十八人

內畢業生六人

山口左仲長野　中山喜美雄鳥取　×柏清二廣島
中野芳熊山口　佐藤美實山口　田邊操岡山
八木重一愛媛　澁谷保東京　×中田理吉岡山
三好駿次郎香川　三宅正雄岡山　齋藤治岡山
土井忠岡山

山本宗平三重　山田金吾德島
小竹豐岡山　深井昇平岡山
登坂清喜山口　高田弘廣島
龍治節三岡山　長崎榮平島根
扇谷茂泰愛媛　田村權五郎廣島
橫尾秋夫島根　乾茂造大阪
岡元一岡山　松村克郎高知
太田仁平治岡山　朝川尙靜岡
×伊藤和一廣島　松島巖德島
湯淺玄雄德島　寺川不二夫大分
由良金一京都　×石田圓之助大阪
望月冬樹廣島　岸本芳秀岡山
楠見尙義和歌山　日城旭丸廣島
×辻田象次郎愛媛　木村正可大分
三上純之兵庫　古林榮次郎德島
光武順一佐賀　小林壽郎廣島
中村善男岡山　×安藤治人大分

畢業生六人

金榮五朝鮮　鐘季襄支那
謝剛傑支那　吳克俊支那

平野友弋山口　水貝作一三重
田中德次郎大阪　久本實三岡山
高橋肇廣島　林隼人福岡
太田幸衛岡山　吉永義雄長崎
遠藤壽太岡山　柴田義一兵庫
木村敏太岡山　小池輝廣島
清水龍介高知　川本健次京都
鹽川宗次鹿兒島　內海重多郎廣島
西田市助廣島　五十嵐香山口
竹內守之輔愛媛　橫田豐治愛知
竹本勇藏廣島　馬場武岡山
高橋良雄大阪　秋田秀岡山
石原英俊岡山　秋山成六岡山
×大隅保一愛媛　竹島光藏大阪
長尾壽廣島　坪郷敏亮岡山
加藤三郎京都　山岸恒三重

龔逸儒支那　龔錕支那

大正八年五月卒業生

九十九人

內畢業生四人

篠原一幸石川　村田保常愛媛
海野仁造岡山　後藤英明廣島
柴村剛次郎廣島　北山幾太郎奈良
多田武香川　山本宗次和歌山
牧野眞人福岡　保田穗和歌山
森野隆高知　池浦義夫香川
富山四郎岡山　前島武夫島根
明渡侃治和歌山　戶出軍兵岡山
橘芳樹愛媛　小坂成信廣島
杉本四郎三重　熊岡貞和香川
中川武雄兵庫　中村泰吉大阪
本城定男岡山　南川良昌鹿兒島
×黑田堅二兵庫　河田豐岡山
藥師寺忠志岡山　清水伸岡山
安本和夫佐賀　×北原牧之助福岡
小野逸士岡山　狩野右玄治岡山
麓善造廣島　橫山周一和歌山
佃武左衛門岡山　黑田强平宮崎

×藤本輝雄兵庫　武野一雄岡山
大橋要人岡山　小田貞男山口
渡邊九郎愛媛　仁木久雄德島
黑瀨巖岡山　下垣義知島根
西村英二兵庫　江口博岡山
樋上藥一郎滋賀　中尾祐三郎德島
×原文藏兵庫　森脇了三島根
友廣利親山口　今村朔雄岡山
×西谷璽次郎德島　山本申三長野
折島整兵庫　齋藤俊則奈良
村上博一愛媛　眞鍋武俊愛媛
澁谷清鳥取　小西例一愛媛
前原士郎廣島　菅野大作三重
佐藤俱正德島　鎌田維三郎德島
吉松正文愛媛　鹽見喜世間京都
伊藤不羈夫福岡　嘉多村練三岡山
安井直澂三重　於保泰造佐賀
河野英夫廣島　須賀廣太岡山

坂上一彦兵庫　近藤鼎奈良
太田幹岡山　永井政德廣島
建銳朗岡山　島田嘉奈哉愛媛
西山昇高知　市川正平東京
岡田正矩三重　穗積孝悌秋田
萩谷勝茨城　今西順治奈良

畢業生四人

廖鼎銘支那　姚鴻翥支那

大正九年五月卒業生百二十一人

內畢業生三人

林香苗德島　怡土良三福岡
×小田義彦廣島　松谷辰造東京
門脇善次山口　橋本孝之助廣島
田內倘民高知　一宮一德大分
丹原驍夫岡山　越智雅二郎愛媛
渡邊恒藏鳥取　土井眞一岡山
堀勘市山口　佐藤一衛岡山
山田一三郎大阪　雲英元雄愛知
山田甫一靜岡　森定惠岡山
中井義重三重　小野獻吉岡山

岡暢岡山　長坂岳水廣島
尾高甫岡山　日竝溫和岡山
大村佐雄德島　日高弘島根
土手恭藏京都　常次熊次兵庫
石橋東福岡　平松直岡山
李甲洙朝鮮

吳光濤支那　龔文燦支那

百二十一人
內畢業生三人

唐澤利千雄長野　大城眞鄉福岡
三宅正一岡山　×小川庄三鳥取
藤政清石山口　佐藤政夫岡山
小松原一郎島根　吉川朋來岡山
原勝巳岡山　御前慶造和歌山
北林稔和歌山　城義彰山口
山尾圓一廣島　井上易憲鳥取
村田帶雲山口　石尾健次郎岡山
野坂綱定鳥取　森木光麿高知
樋上士六廣島　正田政人廣島

宗野正兵庫　前田與三郎愛媛
戶田勇一廣島　逸見銀三郎埼玉
×高井春生山口　大林新廣島
力丸匡兵庫　佐藤忠躬大分
藤田富枝愛媛　河田豐章岡山
有吉邦男福岡　松岡意敬岡山
湯淺忠雄德島　玉川忠太兵庫
下山丈夫岡山　花室憲章熊本
新免精岡山　安武輝一大阪
山本豐之進兵庫　小野哲二岡山
宮本巖山口　重本立郎山口
畠山拓一廣島　北村四郎三重
佐野有俊愛媛　沖隆廣島
藤田朝治兵庫　藤波三元夫東京
秋本運魁岡山　近藤寅夫德島
金子茂廣山口　樋口敏雄滋賀
小川岩雄廣島　有馬實廣島
半田稔兵庫　涂爐臺灣
桂義一兵庫　吳泉臺灣
森下正一岡山　山本正臣岡山

野津芳孝島根　鈴木鉄夫宮崎
松本藤繁愛媛　藤原寬治兵庫
米澤隆之兵庫　毛利明弘岡山
赤堀茂樹岡山　西海一山口
三木克彥廣島　林成道山口
木元六郎山口　武田光治岡山
久留島通政廣島　內藤默仙山口
田和輔廣島　佐藤鳴海大分
辻哲二愛媛　大原孝度廣島
畠中敏郎岡山　富岡諒一岡山
喜多島健麿岡山　田中政次山口
太田澄山口　小田薰愛媛
小堀文哉岡山　辻岡新作山口
足高萬太郎奈良　正田明貫岡山
朝隈末次鹿兒島　池田正夫岡山
新藤輝雄山口　植苗福次郎京都
石原順福岡　藤田正夫愛媛
山田謙吉岡山　和佐景山口
林育伯臺灣　楊丙炎臺灣

畢業生　三人

金烟達朝鮮　陳賀虞支那　賀孝銘支那

大正十年五月卒業生

百七人

今川誠一香川　石井生夫岡山　伊藤哲二岡山
×飯田俊彦長崎　濱崎幸雄三重　板野秀夫岡山
西村慶次兵庫　友澤昇山口　林一眞廣島
沖井磯吉廣島　大塚亮三廣島　濱條信一德島
奥田豐兵庫　渡邊公夫島根　岡崎伊三郎島根
渡邊涉長崎　渡邊馨廣島　岡村起一郎山口
加藤章熊本　×川崎明二鹿兒島　渡邊直明奈良
柏村儁雄福岡　川原敬雄德島　桂正胤德島
田代登廣島　高原靜夫岡山　川崎久夫岡山
坪井義晴廣島　×中野功三重　吉田畫一德島
中村康哉島根　難藤博夫岡山　園部和男岡山
上田泉高知　上田慶一郎福岡　中野滿隆愛媛
野崎美稔岡山　野田榮橘和歌山　村田健輔山口
×久保銀松高知　山縣是之廣島　上塚荒治岡山
八木忠亮兵庫　安岡經高知　野村清奈良
松田國重山口　丸茂岩夫廣島　日下部求岡山
×安田美二鳥取　山下彖澄鹿兒島
松村丈弋山口　山崎義郎和歌山
前田純史兵庫　益田集太廣島

松田清京都　藤井清信愛媛　藤本秀次兵庫　藤江薰太郎德島
福島良敬兵庫　小坂泰輔岡山　×鄉古溫慶手　小林兵馬廣島
黃三朋臺灣　事本臺灣　兒玉利堯鹿兒島　寺本重樹福井
寺迫新次廣島　寺尾尙文岡山　赤尾壽山梨　青山貢廣島
赤木謙吾岡山　佐藤義敏兵庫　佐藤道夫岡山　笹脇正彥兵庫
菊澤隆尙三重　岸本春榮岡山　木村義雄山口　木津政夫兵庫
清谷壽岡山　三宅郁多香川　光井貞八岡山　三宅乾高知
下元猛彥高知　下津森雄香川　進藤周三廣島　×重松・輝好愛媛
清水勝男岡山　廣田臻香川　東三平岡山　東三郎鹿兒島
平岡寬岡山　尾藤太靜岡　東未年男岡山　須藤五一郎高知
鈴木敏郎兵庫　鈴木義人和歌山

畢業生　一人

崔鍾海朝鮮

元岡山醫科大學附屬醫學專門部

大正十一年五月卒業生

百九人

井上達兵庫　出馬晉策三重　五十川健吾大分
渭東黨京都　岩崎壽人鹿兒島　今出金一廣島
濱崎八百松高知　蓮池堯民廣島　晴木親久島根
濱本信雄鳥取　西村伊勢松岡山　堀部元一岡山
本川嘉代一福岡

堀内　洋　鳥取
大森　三彦　岡山
岡崎　集　廣島
加藤　明　島根
加藤　弘一　岡川
我部　政光　沖繩
吉田　稻太郎　福岡
田中屋　清人　山口
田中　敏行　山口
中西　節郎　京都
伊原　重彦　岡山
野中　敏彦　大分
國重　隆一　山口
山口　昂　鹿兒島
前原　六郎次　廣島
藤井　恭　廣島
胡内　光吉　奈良
靍場　美誠　大阪
淺田　一勇　廣島
木村　芳雄　和歌山

德森　德二　鹿兒島
奥山　美佐雄　岡山
岡田　眞一　廣島
片平　年秋　廣島
鎌倉　令三　香川
加藤　喜雄　東京
米原　浩　島根
竹内　覺二　廣島
立石　力長　崎
坪井　賢次　山口
長岡　文策　廣島
上野　直　島根
栗本　博雄　和歌山
山内　繁雄　愛媛
松尾　久朗　島根
藤田　富豐　廣島
小池　藤太郎　三重
寺岡　森太郎　廣島
秋山　賈高　知
岸岡　精華　岡山
結城　英夫　島根

富永　猪佐雄　長崎
太田　弘毅　兵庫
渡邊　稔　岡山
川戸　盛三郎　三重
金田　圖藏　岡山
×吉川　克巳　島根
只友　一富　岡山
武田　縫次　岡山
田中　宣康　島根
難波　驥逸　岡山
內田　唯一　岡山
久保田　正治　和歌山
草野　圖助　岡山
山口　登　鹿兒島
京極　一久　廣島
藤島　新次　福岡
吳　廷桂　支那
有馬　玄和　歌山
佐々木　喬　廣島
金　遠熙　朝鮮

德丸　喬　愛媛
太田　道效　廣島
脇田　豐　廣島
鹿嶺六　泰祐　鹿兒島
片岡　穆　廣島
吉田　良一　和歌山
竹內　覺二　廣島
立石　力長　崎
坪井　賢次　山口
長岡　文策　廣島
上野　直　島根
國正　熏愛　媛
山內　繁雄　愛媛
松尾　久朗　島根
藤田　富豐　廣島
小池　藤太郎　三重
寺岡　森太郎　廣島
秋山　賈高　知
岸岡　精華　岡山
結城　英夫　島根

宮園　榮治　鹿兒島
三玉　正雄　廣島
平井　鐵夫　山口
鈴木　保東　京

宮　長久　大阪
三浦　正臣　愛媛
平野　千秋　愛知

三宅　信吉　廣島
進藤　直作　愛媛
森岡　俊愛　高知

水川　隆士　岡山
重　元良　鹿兒島
森川　巧　廣島

大正十二年三月卒業生　百九人

井上　武志　岡山
伊藤　敏次　和歌山
西下　正巳　和歌山
林　庭燎　臺灣
岡　俊輔　兵庫
岡本　直人　和歌山
小津　尙　岡山
×渡邊　基　福岡
上山　久之助　兵庫
神谷　晃靜　岡
吉岡　總一　岡山
田中　彦太郎　奈良
武田　要　廣島
辻田　武雄　岡山

井上　幸藏　廣島
饑野　隣夫　香川
釋舍　龍猛　廣島
林　如松　臺灣
小栗　參弋　愛知
大道　直一　大阪
大熊　弘三　岡山
神田　熏　廣島
川上　義雄　熊本
桂　保德　島
×吉村　主稅　大阪
田中　隆島　根
段　壽　兵庫
建　義郎　岡山
津田　日出夫　岡山

石田　新太郎　岡山
石川　小次郎　福岡
土斐崎　達雄　福岡
岡野　政一　岡山
×大橋　潔　兵庫
神　盛榮　德島
渡邊　熏　福岡
笠原　浩太郎　岡山
笠原　鶴夫　大阪
萱澤　治作　和歌山
田中　隆島　根
×田邊　繁人　廣島
橘　義一　兵庫
永山　太郎　岡山

井戶　福秀　岡山
潘　共壇　支那
鳥山　好人　岡山
×大內　義行　香川
岡崎　忠雄　廣島
太田　富兒　岡山
渡邊　眞澄　岡山
河村　九十九　滋賀
景山　重一　山口
黃　驗芳　支那
田坂　重實　廣島
高橋　喜代松　廣島
田代　誠　山口
名知　敬之　東京

成田芳夫德島　村上禎一山口
上田正治郎島根　上野博岡山
國本武晴兵庫　熊谷藏之允山口
安次二郎鳥取　安田英二岡山
山田久夫岡山　松岡務山口
藤田孝義島根　藤原良人兵庫
藤原皓岡山　兒島俊亮福岡
江原猪知郎岡山　新勇奈良
秋山彰岡山　靑山俊三廣島
木多秀夫岡山　結緣主計岡山
篠島功大分　四宮角一香川
廣田照輝山口　平松信直岡山
瀨尾正廣島　杉本信義岡山

大正十三年三月卒業生

飯室俊三大阪　井上龜次郎和歌山
岩崎暉次岡山　磯橋庄哲奈良
原田輝雄岡山　西崎武亥一岡山
長亀久麿廣島　大河原柳司東京
大浦榮鹿兒島　尾錢二郎岡山

氏平繁岡山　內田茂雄山口
野島昌一廣島　熊本正熙福岡
國井順岐阜　山中幸正兵庫
山內正愛媛　安原寅一岡山
丸田實喜鹿兒島　丸山一郎滋賀
藤田晴愛媛　福家龍夫德島
小池正之島根　小西眞倘富山
有井吉彥和歌山　阿部高知鳥取
坂本孝章廣島　佐野進兵庫
三村友美岡山　三好繁一香川
鹽見三壽太岡山　重里櫃藏大阪
日野從義福岡　久持義明大分
杉田浦美愛知

百五人

糸林昌訓德島　池井柳藏宮崎
伊藤一雄兵庫　坂東行雄和歌山
本多稔長崎　豐島一男鹿兒島
鬼塚敦神奈川　岡本俊一和歌山
小野正雄岡山　尾坂政男岡山

岡本正人大分　太田德次郎岡山
加藤喬島根　河野豐島根
河田榮一岡山　覺前久次郎兵庫
吉本精一岡山　×芳井康次大阪
山本太郎鳥取　高田隆次大分
田中公明愛媛　田坂三友廣島
津下百太岡山　辻鹿子治岡山
永井良政愛媛　中井良平福岡
上村博美德島　植村吉雄岡山
野崎孝太郎新潟　釘宮文生大分
山本浩治山口　安氏茂山口
山本本一兵庫　山岸督郎岐阜
正木忠生山口　松家稔德島
藤山嵩岡山　福永正二兵庫
跡部鉄朗山梨　荒田一郎山口
秋月正夫和歌山　鮫島宗雄鹿兒島
岸虎一德島　南智秋三重
宮本種美香川　三島好太郎廣島
瀨尾仁廣島　瀨戶忠治郎香川
蔡錫錡臺灣　陳嘉得臺灣

和田茂島根　脇田政之助鹿兒島
川西英雄岡山　勝野勝德島
加賀吳一岡山　吉中佳辰夫廣島
高市太加一愛媛　田中敏治岡山
高畠西輝岡山　田中龜岡山
田中德男廣島　竹谷政治大阪
綱島義人岡山　難波良隣岡山
中村武山口　中富和夫德島
上田敏夫兵庫　×浦上仲司岡山
桑島勝美香川　山內雅材香川
山崎光太郎廣島　山鹿敏行福岡
八木齊大阪　眞玉三治郎大分
松岡勇高知　松枝正一岡山
粉川隆一愛媛　遠藤義信德島
淺田豐大阪　赤松圓岡山
笹屋昌平靜岡　佐藤春海大分
西山逸平香川　南進大阪
柴田潤一岡山　重信琢雄廣島
鈴木重隆岡山　須山義雄岡山
江慶臺灣　黃有福臺灣

黃耀祖支那　陳人杰支那

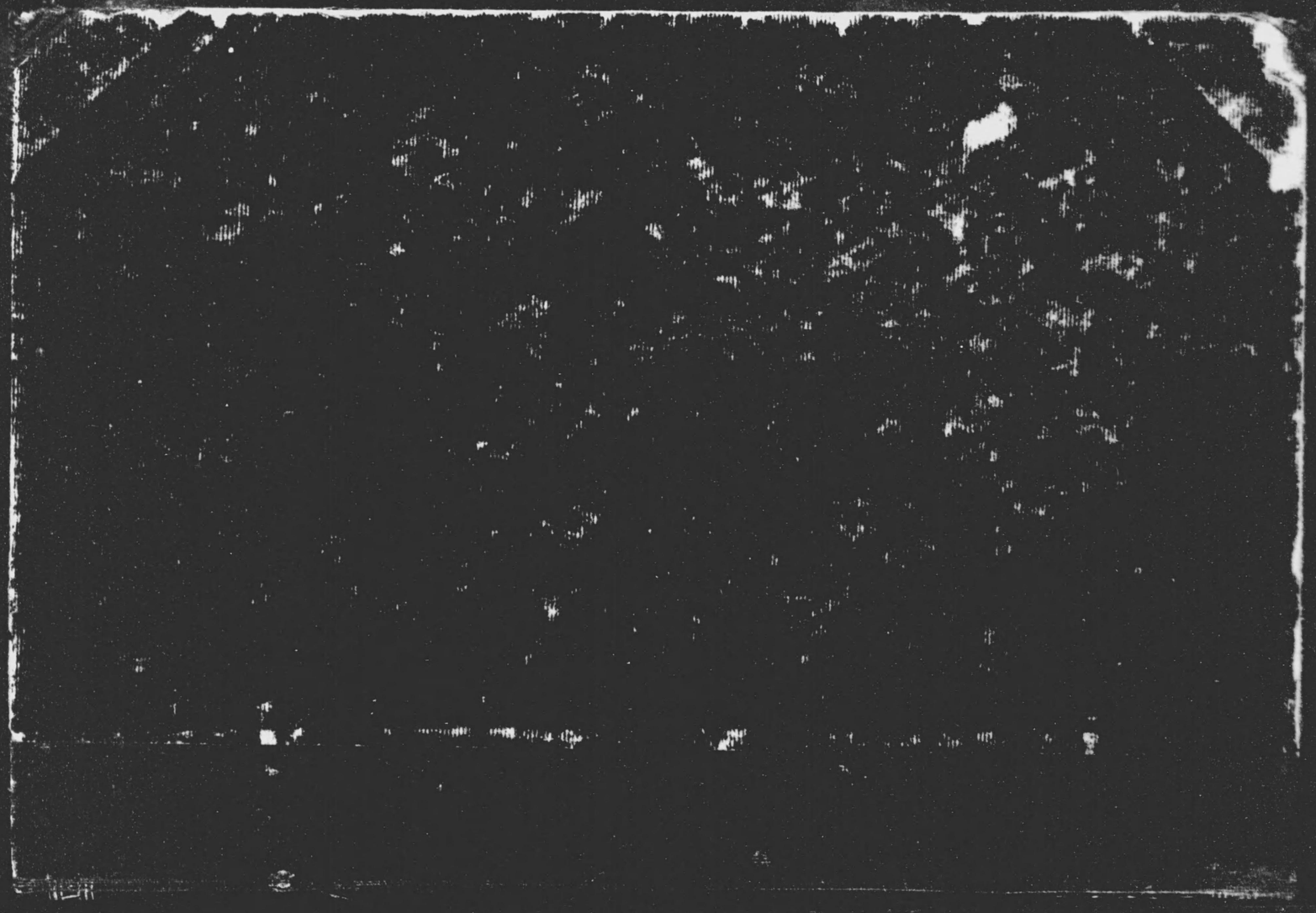
鍾體德支那　李詩時支那　姜龍雲朝鮮

昭和二年三月十八日印刷
昭和二年三月二十日發行

編輯兼發行者　岡山醫科大學　岡山市岡

印刷者　村本万龜男　岡山市東中山下百二十三番ノ第一地

印刷所　研精堂印刷所　岡山市東中山下百二十三番ノ第一地

287
9

287
別置
9